

2024 年度 事業報告書

目次

・はじめに	・・・・・・・・	1
・法人の概要	・・・・・・・・	2
・学校法人島津学園 役員・評議員	・・・・・・・・	8
・中期計画【5年間：2023年度～2027年度】	・・・・・・・・	10
・本学の教育について	・・・・・・・・	11
・2024年度の事業概要	・・・・・・・・	16
・本学の教育活動に対するアンケート結果	・・・・・・・・	33
・外部資金の獲得状況	・・・・・・・・	35
・F D・S D活動	・・・・・・・・	35
・財務の概要	・・・・・・・・	40
・内部統制システム整備の基本方針	・・・・・・・・	48
・教員研究業績	・・・・・・・・	50

はじめに

本学は、1927 年（昭和 2 年 9 月）に、我が国初のエックス線技師の養成機関として「島津レントゲン技術講習所」を設立しました。以来、一貫して変わらぬ建学の精神のもと、時代の要求に沿う高度な技術を修得した診療放射線技師を輩出するべく、診療エックス線技師制度の変遷に対応しながら、専修学校、専門学校、短期大学と技師教育一筋に歩みを進めて参りました。

このような歴史を継承し、社会の要請する、より高度な医療技術者を輩出するために、2007 年（平成 19 年 4 月）に 4 年制大学である京都医療科学大学へ改組しました。

18 歳人口の減少とともに私立大学を取り巻く厳しい環境の中、①放射線技術学科の深耕、内容の充実 ②医療専門職にふさわしい学士力の醸成と品性の確保 ③教育・研究環境の充実 ④法人・教学の健全な管理運営の維持 を基本方針として教育活動を展開しました。

については、2024 年度事業報告書を作成しましたので、ここにご報告いたします。

学園の概要



1) 基本情報

法人の名称 学校法人 島津学園

住 所 622-0041 京都府南丹市園部町小山東町今北1番 3

代表番号 0771-63-0066

ホームページ <https://www.kyoto-msc.jp/>

2) 建学の精神

品性を陶冶し有為の技術者を養成するを以て目的とす。

教育理念

医療科学に関する高度の知識及び科学技術について教育・研究するとともに、品性を陶冶し、国民の保健医療の向上に寄与できる有為の医療専門職の人材を育成する。

教育目的

京都医療科学大学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、医療科学に関する高度の知識及び技術について教育・研究するとともに、品性を陶冶し、国民の保健医療の向上に寄与できる有為の医療専門職の人材を育成することを目的とします。

3) 京都医療科学大学 3 つのポリシー

(ア) 入学者受入方針 (アドミッションポリシー)

京都医療科学大学では、建学の精神に沿って次のような人物を求めている。

- ① 医療科学における高度先端知識の修得に意欲を持つ人物
- ② 常に問題意識を持ち、課題解決に向けて思考し、理解しようという意欲を持つ人物
- ③ 多種多様な医療の職場環境において、常に明るく、協調性と積極性に富み、柔軟に対応できる素養のある人物
- ④ 診療放射線技師として、将来、社会貢献したいという意欲を持つ人物

求める能力

- ・ 基礎的な数学能力
- ・ 基礎的な国語能力
- ・ 基礎的な英語能力

(イ) 教育課程方針(カリキュラムポリシー)

京都医療科学大学では、ディプロマポリシーに要求される能力を修得するため、教養教育科目、専門基礎科目、専門科目、総合科目に区分し、以下の方針でカリキュラムを編成する。

- ① 教養教育科目では、社会における医療人としての幅広い人間性を形成するため、高等学校で学んだ基礎知識をさらに深める。また、科学的思考の基盤となる数学や物理学、生物学等を初年次に学び、科学技術の進展等に対応し得る統合された知の基盤を獲得するための科学的思考を養い、専門基礎科目への導入をはかる。さらに、生活の基盤 及び人間に対する理解を深めるための科目を配置し、グローバル社会でチーム医療の一員として活躍するためのコミュニケーション能力を養う科目等を配置する。
- ② 専門基礎科目は、専門的知識や技術を学修するための基礎となる科目群であり、思考力、判断力を養い、進歩の著しい放射線技術学の実践応用に対応できる基礎知識を修得するため、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 及び 理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術 を学ぶ科目等を配置する。
- ③ 専門科目では、実践を支える専門的知識・技術を確実に修得する科目として、診療画像技術学、核医学検査技術学、放射線治療技術学、医用画像情報学、放射線安全管理学、医療安全管理学等の科目群を配置する。さらに、学内の最新医療機器を用いた実験実習科目では、進歩の著しい放射線技術学分野の知識を確実にし、発展させ、学生自らが探求し、応用する能力を養う。
- ④ 総合科目では、これまでの学修の集大成として総合研究及び 総合演習を実施する。総合研究では、学生の主体的な研究を通して、研究テーマの決定、問題解決能力、研究計画の立案能力、論文作成能力を体得する。総合演習では、専門基礎科目、専門科目で学修した内容について、知識・技術を総合的に整理して臨床現場で迅速に対応できる応用能力を身につける。また、学外での臨床実習を通して、臨床現場で役立つ診療放射線技師としての能力を養う。

(ウ) 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

京都医療科学大学の建学の精神により、以下のような能力を身につけ、かつ本学の学則に定める卒業に必要なすべての授業科目の単位を修得した者について、卒業を認定し学位を授与する。

- ① 品性を陶冶し、チーム医療の一員としてコミュニケーション能力と幅広い一般教養を兼ね備えている。
- ② 医療技術に関する専門的知識 及び 基礎となる知識を十分に修得している。
- ③ 思考力、理解力を有し日々進歩する技術に自ら対応できる能力を備えている。
- ④ 医療技術で地域社会・グローバル社会に貢献するとともに、国民の保健医療の向上に寄与し、人類の健康への願いを実現する強い意欲を持っている。

学校法人の沿革

昭和 2 年 9 月	(1927 年)	島津レントゲン技術講習所創立(各種学校) 修業期間 6 ヶ月 入学定員 20 名
昭和 6 年 10 月	(1931 年)	修業期間を 9 ヶ月に延長 入学定員を 25 名に増員
昭和 10 年 2 月	(1935 年)	校名を「レントゲン技術専修学校」と改称 修学期間を 1 年に延長 入学定員を 30 名に増員
昭和 21 年 4 月	(1946 年)	入学定員を 50 名に増員
昭和 27 年 4 月	(1952 年)	修学期間を 2 年に延長 総定員を 100 名に増員
昭和 44 年 4 月	(1969 年)	修学期間を 3 年に延長 総定員を 150 名に増員
昭和 45 年 4 月	(1970 年)	校名を「京都放射線技術専門学校」と改称
昭和 52 年 11 月	(1977 年)	学校法人「京都放射線学園」設立 各種学校を専修学校に変更
昭和 58 年 4 月	(1983 年)	校名を「京都医療技術専門学校」と改称 法人名称を「京都島津医療技術学園」と改称
昭和 62 年 2 月	(1987 年)	短期大学設立準備室を開設
昭和 63 年 12 月	(1988 年)	「京都医療技術短期大学」の設置認可 京都府知事所轄から文部大臣所轄に組織変更認可
平成元年 4 月	(1989 年)	「京都医療技術短期大学」開学
平成 3 年 8 月	(1991 年)	「京都医療技術専門学校」を廃止 法人名称を「島津学園」と改称
平成 17 年 4 月	(2005 年)	4 年制大学開設準備室を設置
平成 18 年 4 月	(2006 年)	「京都医療科学大学」設置認可申請
平成 18 年 11 月	(2006 年)	「京都医療科学大学」設置認可
平成 19 年 4 月	(2007 年)	「京都医療科学大学」開学 入学定員 80 名
平成 23 年 10 月	(2011 年)	「京都医療技術短期大学」廃止
令和 7 年 4 月	(2025 年)	入学定員を 90 名に変更予定

設置する学校・学部・学科等

京都医療科学大学 医療科学部 診療放射線学科

学部・学科等の学生数の状況

2024年5月1日現在（単位：名）

	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
医療科学部 診療放射線技術学科	80	87	320	372

収容定員充足率

2024年5月1日現在

	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
※上段：修業年限超過 在籍2年以内	<u>109%</u> 117%	<u>114%</u> 118%	<u>114%</u> 119%	<u>112%</u> 117%	<u>109%</u> 115%

2025年度入試の状況

2025年3月末現在（単位：名）

志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
357	350	131	90

国家試験の状況

2025年3月末合格状況（単位：名）

卒業者【学位授与】数	国家試験受験者数	国家試験合格者数
88	87	79

就職状況

2025 年 3 月末現在(単位:名)

大学院進学	国公大付属	私立大附属	国公立病院	公的施設	私立病院 企業附属	検診系/他
1	4	2	9	12	23	12

教職員の概要

2024 年 5 月 1 日現在 (単位:名)

教員					専任職員
教授	准教授	講師	助教	兼任教員	
9	3	6	3	36	22

教員が有する学位

2024 年 5 月 1 日現在

職位	学位	氏名	性別
学長/教授	博士(医学)	玉木 長良	男
教授	博士(医学)	柴田 登志也	男
教授	博士(工学)	森 正人	男
教授	博士(医学)	江本 豊	男
教授	博士(医学)	大野 和子	女
教授	博士(医学)	松尾 悟	男
教授	博士(保健学)	水田 正芳	男
教授	博士(工学)	澤田 晃	男
教授	博士(医学)	平田 誠	男

准教授	学士(文学)	遠山 景子	女
准教授	修士(工学)	赤澤 博之	男
准教授	博士(工学)	田畑 慶人	男
講師	修士(英語教授法)	山本 美津子	女
講師	博士(医学)	中村 泰典	男
講師	博士(文学)	青野 美幸	女
講師	修士(文学)	富高 智成	男
講師	博士(保健学)	霜村 康平	男
講師	博士(薬学)	屋木 祐亮	男
助教	博士(保健学)	桑原 奈津美	女
助教	修士(応用情報学)	本谷 崇之	男
助教	博士(保健学)	石田 翔太	男

学費

単位(円)

学費	1 年次		2 年次以降	
	入学時	後期	前期	後期
入学金	250,000	—	—	—
授業料	450,000	450,000	450,000	450,000
施設設備費	175,000	175,000	175,000	175,000
実験実習料	145,000	175,000	175,000	175,000
計	1,020,000	800,000	800,000	800,000

学校法人島津学園 役員・評議員

定数：理事8人、監事2人、評議員17人

現員：理事8人、監事2人、評議員17人

(2025年3月末現在)

役職	選任に係る寄付行為の条項	氏名	主な現職等	役員就任年月日	常勤 非常勤	非業務 執行理事	外部 理事	責任 限定 契約
理事長	第6条第1項第2号 評議員のうちから評議員会において選任した者 第5条第2項 理事のうち1人を理事長とし、理事総数の過半数の議決により選任する。理事長の職を解任するときも、同様とする。	上田 輝久	株式会社島津製作所 代表取締役会長 公益財団法人 京都産業21 理事長 公益財団法人 国際高等研究所 理事長	2022/6/27	非常勤			-
常務理事	第6条第1項第2号 第5条第3項 理事（理事長を除く。）のうち一人を常務理事とし、理事総数の過半数の議決により選任する。常務理事の職を解任するときも、同様とする。	鈴木 英文	京都医療科学大学 事務局長	2016/4/1	常勤			-
理事	第6条第1項第1号 京都医療科学大学長	玉木 長良	京都医療科学大学 学長 公益財団法人 体質研究会 代表理事	2023/4/1	常勤			-
	第6条第1項第2号	※山本 靖則	株式会社島津製作所 代表取締役社長 一般社団法人 日本計量機器工業連合会	2022/7/1	非常勤	○	○	○
	第6条第1項第3号 学識経験者の中から理事会において選任した者	※伏木 信次	京都中部総合医療センター 総長	2017/9/1	非常勤	○	○	○
		遠藤 啓吾	京都医療科学大学 名誉学長 公益財団法人 体質研究会 理事	2023/4/1	非常勤	○		-
		※阪原 晴海	東近江市蒲生医療センター PET診断センター長	2023/12/8	非常勤	○	○	○
		※山田 恵	京都府立医科大学病院 放射線科 教授 一般社団法人 日本放射線科専門医会・医会 理事長 一般社団法人 アジア・オセアニア神経放射線学会Secretary General	2012/6/1	非常勤	○	○	○
監事	第7第1項 この法人の理事、職員（学長、教員その他の職員を含む。以下同じ）、評議員又は役員の配偶者若しくは三親等以内の親族以外の者であって理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。	※高橋 一浩	元 監査法人トーマツ 公認会計士	2018/12/12	非常勤			○
		※藤井 浩之	株式会社島津製作所 常任監査役	2013/7/1	非常勤			○

役職	選任に係る寄付行為の条項	氏名	主な現職等	役員就任年月日	常勤 非常勤	非業務 執行理事	外部 理事	責任 限定契約
評議員	第26条第1項第1号 この法人の職員で理事会において推薦された者のうちから評議員会において選任した者	鈴木 英文	京都医療科学大学 事務局長	2016/4/1	常勤			
		森 正人	京都医療科学大学 教授	2016/4/1	常勤			
		大野 和子	京都医療科学大学 教授	2011/6/1	常勤			
		松尾 悟	京都医療科学大学 教授	2024/6/1	常勤			
	第26条第1項第2号 この法人の設置する学校を卒業した者で、年齢25年以上の者のうちから、理事会において選任した者	錦 成郎	元公益財団法人天理よろづ相談所病院 放射線部 技師長	2018/4/1	非常勤			
		西谷 源展	京都医療科学大学 名誉教授 学友会 元副会長	1977/12/1	非常勤			
		神澤 良明	元神戸大学医学部附属病院 放射線部技師長 学友会 元会長	2001/12/4	非常勤			
		埜藤 眞純	元厚生年金病院 放射線部技師長 学友会 元会長	2004/5/25	非常勤			
		藤田 透	元京都大学附属病院 放射線部副技師長 元日本放射線技術学会 会長	2008/4/1	非常勤			
		谷口 正洋	元信州大学医学部附属病院 放射線部技師長	2024/6/1	非常勤			
	第26条第1項第3号 学識経験者のうちから、理事会において選任した者	上田 輝久	株式会社島津製作所 代表取締役会長	2015/7/1	非常勤			
		伏木 信次	京都中部総合医療センター 総長	2017/9/1	非常勤			
		山田 恵	京都府立医科大学病院 放射線科 教授	2012/6/1	非常勤			
		山本 靖則	株式会社島津製作所 代表取締役社長	2022/7/1	非常勤			
		溝脇 尚志	京都大学大学院医学研究科 放射線医学講座 放射線腫瘍学・画像応用治療学 教授	2017/4/1	非常勤			
		中本 裕士	京都大学大学院医学研究科 放射線医学講座 画像診断学・核医学 教授	2020/12/1	非常勤			
		園木 清人	株式会社島津製作所 医用機器事業部長	2023/6/1	非常勤			

※印の役員については、私立学校法第44条の2第1項に基づく損害賠償責任について、同条第4項及びその準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第115条並びに学校法人島津学園 寄附行為 第21条の規定に基づき、本法人と責任限定契約を締結している。

中期計画【5 年間:2023 年度～2027 年度】

建学の精神、教育理念、教育目的のもと、2027 年に迎える創立 100 周年に向けて、3 つのポリシーを具現化するため中期計画を策定する。

基本方針

1. 医療科学技術の進歩に対応できる人材を育成する。
2. 医療専門職にふさわしい学士力の醸成と品性の陶冶を目指す。
3. 教育研究環境を充実させる。
4. 豊かな人間性を持つ優れた人材を育成し医療の向上に寄与する。

事業環境

1. 大学入学志望者数が大学入学定員数を下回る「大学全入」時代が近いうちに到来
2. 私立大学の 4 割以上が定員割れ、3 割以上が赤字経営
3. 増え続ける診療放射線技師養成施設 (2022 年度 54 校)

本学の現状

1. 総合入試、推薦入試併願の新設を始めとした入試改革、オープンキャンパス強化など、入学志望者を確保するための施策に注力
2. 厳しい事業環境の中で、辛うじて大学経営に必要な入学志願者数を確保

目標

基本方針に則り 2027 年度(令和 9 年度)において達成する目標を次のように定める。

経営課題

1. 国家試験合格率 95%以上、就職率 100%を維持する。
2. 募集定員の 3 倍以上の実質総受験者数を確保する。

学生に関わる課題

1. 教育成果を踏まえて教育方法を改善し、学生の授業満足度をさらに高める。
2. 教育・学生支援体制の充実を図り、学生の生活満足度をさらに高める。
3. 双方向の国際交流を通じて、国際的な視野、ダイバーシティの尊重を身に付けさせる。
4. 環境配慮、サステナビリティを意識した日々の生活や行動を定着させる。

教職員に関わる課題

- 1) これまでの古い伝統を超えて、新しい時代に対応した教職協働を実践する。
- 2) DX、ICT の推進を念頭に、教育研究環境のさらなる充実を図る。
- 3) 科研費など外部資金の獲得に努め、研究面でも本学のプレゼンスを高める。
- 4) FD、SD 活動を持続的に行い、教職員の質を向上させる。
- 5) 教職員の高い専門性や充実した保有設備と学生の若い力を生かし、社会や地域に貢献する。
- 6) PDCA サイクルの実質化により、恒常的な内部質保証体制を確立する。

本学の教育について

本学では、高度化する医療の新しい時代を担う放射線技術者としての高い専門知識と研究心を養うことを目指し、授業を通じて段階的に理解していけるように第1学年から第4学年にわたって科目を配分している。

① 教養教育科目では、社会における医療人としての幅広い人間性を形成するため、高等学校で学んだ基礎知識をさらに深める。また、科学的思考の基盤となる数学や物理学、生物学等を初年次に学び、科学技術の進展等に対応し得る統合された知の基盤を獲得するための科学的思考を養い、専門基礎科目への導入をはかる。さらに、生活の基盤 及び人間に対する理解を深めるための科目を配置し、グローバル社会でチーム医療の一員として活躍するためのコミュニケーション能力を養う科目等を配置する。

区分	授業科目	単位数			卒業に必要な単位数	
		必修	選択	自由	必修	選択
教養教育科目	基礎数学			1	11	2単位以上
	数学	1				
	物理学	1				
	化学	1				
	コンピュータ学	1				
	コンピュータ演習			1		
	情報処理学	1				

	人間 と生 活	人文科学	文章表現の方法	1				2 単 位 以 上
			コミュニケーション論	1				
			現代社会と倫理		1			
			心理学入門		1			
			日本文学を読む		1			
		社会科学	社会と医療		1			
			健康な生活と医療の法		1			
			時事問題から学ぶ日本経済		1			
		外国語	英語	1				
			医療英語	1				
			医療英語コミュニケーション	1				
			英語コミュニケーション I		1			
			英語コミュニケーション II		1			
			中国語入門		1			
			中国語コミュニケーション		1			
		初年次に学ぶ大学でのスタディ・スキルズ		1				

② 専門基礎科目は、専門的知識や技術を学修するための基礎となる科目群であり、思考力、判断力を養い、進歩の著しい放射線技術学の実践応用に対応できる基礎知識を修得するため、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 及び 理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術 を学ぶ科目等を配置する。

区分	授業科目	単位数			卒業に必要な単位数	
		必修	選択	自由	必修	選択
専門 基礎 科目	人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち	生命・医療倫理学	1		39	専門基礎科目及び専門科目の中から 3単位以上
		解剖学 I	2			
		解剖学 II	2			
		解剖学特論		1		
		細胞生物学	2			
		生理学	2			
		臨床医学概論 I	2			
		臨床医学概論 II	2			

		臨床医学概論Ⅲ	1				
		臨床心理学	2				
		救急医学	1				
		看護学概論	1				
	保健医療福祉における 理工学的基礎並びに 放射線の科学及び技 術	プログラミング概論	2				
		プログラミング演習		1			
		応用数学	2				
		医用工学Ⅰ	2				
		医用工学Ⅱ	2				
		放射線物理学Ⅰ	2				
		放射線物理学Ⅱ	2				
		放射線生物学	2				
		放射化学	2				
		放射線計測学Ⅰ	2				
		放射線計測学Ⅱ	2				
		専門基礎科目実験	1				

③ 専門科目では、実践を支える専門的知識・技術を確実に修得する科目として、診療画像技術学、核医学検査技術学、放射線治療技術学、医用画像情報学、放射線安全管理学、医療安全管理学等の科目群を配置する。さらに、学内の最新医療機器を用いた実験実習科目では、進歩の著しい放射線技術学分野の知識を確実にし、発展させ、学生自らが探求し、応用する能力を養う。

区分		授業科目	単位数			卒業に必要な単位数	
			必修	選択	自由	必修	選択
専門 科目	診療画像技術学	診療放射線技術学概論	1			65	専門基礎科目及び専門科目の中から 3単位以上
		診療画像機器学Ⅰ	2				
		診療画像機器学Ⅱ	2				
		診療画像機器学Ⅲ	2				
		エックス線撮影技術学	2				
		診療画像検査学Ⅰ	2				
		診療画像検査学Ⅱ	2				
		診療画像検査学Ⅲ	2				

		画像機器工学特論		1	
		臨床画像学Ⅰ	2		
		臨床画像学Ⅱ	2		
		画像診断技術学	1		
		診療画像解剖学演習		1	
		先端放射線技術学特論			1
		専門科目実験Ⅰ	1		
		専門科目実験Ⅱ	1		
		専門科目実験Ⅲ	1		
		専門科目実験Ⅳ	1		
	核医学検査技術学	臨床核医学概論	2		
		核医学検査技術学Ⅰ	2		
		核医学検査技術学Ⅱ	2		
	放射線治療技術学	放射線腫瘍学概論	2		
		放射線治療技術学Ⅰ	2		
		放射線治療技術学Ⅱ	2		
		放射線治療技術学Ⅲ	1		
	医用画像情報学	医療情報学Ⅰ	2		
		医療情報学Ⅱ	2		
		医療画像情報学	2		
		画像工学	2		
		画像工学特論		1	
	放射線安全管理学	放射線安全管理学Ⅰ	2		
		放射線安全管理学Ⅱ	2		
	医療安全管理学	医療安全管理学	2		
	実践臨床画像学	実践臨床画像学実習	1		
		実践臨床画像学	1		
	臨床実習	診療画像技術学臨床実習Ⅰ	2		
		診療画像技術学臨床実習Ⅱ	6		
		核医学検査技術学臨床実習	2		
		放射線治療技術学臨床実習	2		

④ 総合科目では、これまでの学修の集大成として総合研究及び 総合演習を実施する。総合研究では、学生の主体的な研究を通して、研究テーマの決定、問題解決能力、研究計画の立案能力、論文作成能力を体得する。総合演習では、専門基礎科目、専門科目で学修した内容について、知識・技術を総合的に整理して臨床現場で迅速に対応できる応用能力を身につける。また、学外での臨床実習を通して、臨床現場で役立つ診療放射線技師としての能力を養う。

区分	授業科目	単位数			卒業に必要な単位数	
		必修	選択	自由	必修	選択
総合科目	総合研究	2			6	
	総合演習	4				

卒業に必要な単位要件

授業科目の区分		卒業に必要な履修単位数		
		必修	選択	計
教養教育科目	科学的思考の基盤	5	－	16
	人間と生活	5	6	
専門基礎科目	人体の構造と機能および疾病の成り立ち	18	3	110
	保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学および技術	21		
専門科目	診療画像技術学・臨床画像学	24		
	核医学検査技術学	6		
	放射線治療技術学	7		
	医用画像情報学	8		
	放射線安全管理学	4		
	医療安全管理学	2		
	実践臨床画像学	2		
	臨床実習	12		
総合科目		6	－	6
合 計		128（必修 121、選択 7）		

2024 年度の事業概要

教育・研究活動

3 年連続「ビジネス文書検定」において文部科学大臣賞を受賞

本学は「就職に強い大学」として、資格取得支援に注力している。本年度は、3 級 91 名、2 級 105 名が受験(延べ人数)した。結果、3 級合格者 80 名、2 級合格 67 名と、多くの合格者を輩出した。その功績に対し、3 年連続で文部科学大臣賞が贈られた。

受賞した青野美幸講師は、受賞の感想を以下のように述べた。「3 年連続、文部科学大臣賞受賞の背景には、楽しんで学ぶことに長けた本学学生の学ぶ姿勢がある。ビジネス文書検定での本学の好成績について取材を受けた時にも、本学学生の「楽しく学ぶ」姿勢や考え方に驚かされていた。これからも楽しく学んでもらえるよう工夫を続けていきたい。」



本学では、ビジネス文書検定の検定料について、島津奨学金:資格取得奨学金を活用している。この奨学金により、受験者の学習機会の拡充を図っている。

中学生向け放射線教材が「放射線教材コンテスト」で最優秀賞など 4 賞を受賞

「中学生向け放射線教材」が「放射線教材コンテスト」において最優秀賞を含む 4 つの賞を受賞した。本学の 3 年生が、公益財団法人日本科学技術振興財団が主催する 2024 年度放射線教材コンテストにおいて、『ラジトレ』で楽しく放射線と医療の知識を身につけよう！という作品を発表し、「最優秀賞」「全国中学校理科教育研究会特別賞」「NPO 法人放射線教育フォーラム特別賞」「日本科学技術振興財団理事長賞(当日の参加者と審査員の投票による)」の 4 つの賞を獲得する快挙を成し遂げた。全国 16 校・213 件の応募の中から選ばれた。

「ラジトレ」は、中学生を対象としたカードゲーム形式の理科教材である。その作成にあたり、地元の園部中学校 3 年生 120 名の協力を得て改良を重ねた。放射線教材コンテストの審査委員長は、最優秀賞を受賞した 2 作品について、「すべての審査員がその教育効果の高さを認め、これなら教育現場で教材として活用される可能性がある」と評価した。

受賞した学生は、本活動について次のように感想を述べた。「ゼミ活動の一環として放射線教育の教材を作成し、試作と改良を重ねて完成させた。教職員の協力を得ながら最終的に納得のいく形でコンテストに応募。結果として最優秀賞を含む 4 つの賞を受賞し、本教材の



意義を実感した。また、日本科学技術振興財団での発表や意見交換を通じてコミュニケーション能力や文章作成能力の向上にもつながった。ゼミの仲間とともに努力し、その成果を得られたことは貴重な経験となった。」

診療放射線技師法改正による業務拡大にともなう告示研修の学内実施

医師等の負担軽減、タスク・シフト/シェアのために、診療放射線技師法が改正されたことを受け、それまで医師等が行っていた業務の一部を今後は診療放射線技師が行うことが可能になった。それに伴い、厚生労働大臣が指定する研修の受講が義務付けられたため、本学でも 2024 年度に卒業する 4 年生を対象として、告示研修を実施した。

告示研修には、基礎研修(e-ラーニング形式)と実技研修(会場型)とが必要となり、旧カリキュラム対象の 4 年生を中心に合計 102 名が研修を修了した。

診療放射線技師の 新たな業務として追加される内容は以下の通りである。

- ① 造影剤を使用した検査やRI検査のために静脈路を確保する行為、RI検査医薬品の投与が終了した後に抜針及び止血を行う行為
- ② RI検査のためにRI検査医薬品を注入するための装置を接続し、当該装置を操作する行為、動脈路に造影剤注入装置を接続する行為(動脈路確保のためのものを除く)、動脈に造影剤を投与するために造影剤注入装置を操作する行為
- ③ 下部消化管検査(CT コロノグラフィ検査を含む)のため、注入した造影剤及び空気を吸引する行為
- ④ 上部消化管検査のために挿入した鼻腔カテーテルから造影剤を注入する行為、当該造影剤の投与が終了した後に鼻腔カテーテルを抜去する行為
- ⑤ 医師又は歯科医師が診察した患者について、その医師又は歯科医師の指示を受け、病院又は診療所以外の場所に出張して行う超音波検査



本学5階多目的ホールで実施した、告示研修当日に様々な機器を体験する学生の様子

学会参加奨励金の活動報告

2023 年度より、「積極的に学ぶ学生を支援する」ことを目的として創設された島津奨学金:学外活動奨学金制度(学会参加奨励金)を活用して、計 22 名の学生が国内外の学会へ積極的に参加した。本奨学金により、多くの学生が見分を広げる機会を得た。

特に、欧州核医学会「EANM.24」においては、本学 4 年生が論文採択を受け、ポスター発表を行った。参加した学生は報告会において、次のように述べている。

「今回の学会への参加を通じ、これまでの学びが核医学分野の一部であることを改めて認識するとともに、核医学分野における機器や放射性同位元素 (RI) の改良、新薬剤の開発・応用が進められている状況に感銘を受けた。また、多様な国籍の参加者との交流を通じて、物事の捉え方や価値観の違いを実感し、貴重な学びを得ることができた。この経験を踏まえ、大学院進学後には国際学会に継続的に参加し、知識の収集や発表に積極的に取り組む所存である」と述べた。

以下に2024年度の島津奨学金:学外活動奨学金(学会参加)の活動について報告する。

開催日	参加学会名/開催地/人数/引率教員
2024 年 4 月	学会名:JRC2024(第 80 回日本放射線技術学会総会学術大会) 開催地(会場):神奈川県横浜市 パシフィコ横浜 参加人数:2 名 引率教員:大野和子教授 写真:学会会場にて 参加学生の報告書から一部抜粋: 今回の学術大会で研究というものが具体的に知ることができ、特に題材に対しての観点の付け所などに研究者の偉大さを覚えました。今回、JCR2024 に参加できて非常に良い刺激となりました。 
pp2024 年10月	学会名:第 60 回 日本赤十字社医学会総会 開催地(会場):宮城県仙台市 仙台国際センター 参加人数:5 名 引率教員:平田誠教授 写真:学会会場にて 参加学生の報告書から一部抜粋: この学会に参加して、放射線技師の撮る画像が診断・治療の基盤としてとても重要なものであると改めて実感しました。日々の学習や行動を見直し、放射線技師として人々の役に立てよう知識や技術を身につけていけるよう努力し続けます。 

開催日	参加学会名/開催地/人数/引率教員
2024 年 9 月	学会名:欧州核医学会議(EANM2024) 開催地(会場):ドイツハンブルク CCH – Congress Center Hamburg 参加人数:1 名 引率教員:屋木祐亮講師 発表セッション名:D52 New Radiopharmaceuticals – PET 発表形態:e-Posters e-Poster Session Number: EP-61 Your e-Poster Number: EP-0963    GE ヘルスケアの展示ブース シーメンスの展示ブースにて PET 及び SPECT 撮像画像の閲覧 参加学生の報告書から一部抜粋: 自分の知らないところで、さまざまな研究や開発が進められ、研究や開発がすべて、必要としている誰かのために行われている環境であると強く感じ、この分野に深く関与したいと考えるようになった。
2025 年 3 月	学会名:KIMES 2025 – Korea International Medical & Hospital Equipment Show 開催地(会場):韓国 ソウル COEX 参加人数:9 名 引率教員: 松尾悟教授、水田正芳教授 写真:学会会場にて  参加学生の報告書から一部抜粋: ソウルの COEX ホールで開催された KIMES に参加し、最先端の医療機器や研究成果を見学しました。将来、診療放射線技師として業務に励む上で、こうした技術の恩恵を認識する重要性を実感しました。 学術大会では、日本や韓国の研究発表を見学し、自身も将来、研究を進めて発表する可能性を感じました。また、英語での発表を通じて、英語力向上の必要性を痛感しました。 学会場では 2025 年 1 月本学に来校した、韓国 新丘大学の学生と再会し、同じ分野で努力する姿が励みとなりました。今回の学会参加で得た経験を活かし、今後の成長に繋げていきたいと考えています。

海外研修活動報告

本学では、国際的な視野を持つ医療人の育成を目的として、島津奨学金(学外活動奨学金:海外研修)を活用し海外研修を実施している。2024年度は、台湾とベトナムにおいて研修を実施したので次のように報告する。

台湾(元培医事科技大学)研修

2024年8月25日(日)から31日(土)、2年生9名(男子3名、女子6名)が参加した台湾・新竹市の元培医事科技大学にて海外研修を実施した。元培医事科技大学は、本学卒業生が創設した台湾初の診療放射線技師養成校であり、現在は医療系の中規模大学として発展している大学であり、本学との交流は60年になる。

研修内容は、学内にて中国語講座・施設見学・学生交流を行い、学外では新竹国泰病院および臺安病院の医療施設を訪問した。滞在期間中は、大学寮に宿泊し、食事もビュッフェ形式で提供され、現地学生と交流する機会が十分に設けられ、積極的に交流する環境が整えられていた。

学内研修では施設見学と中国語講座を受けた。施設見学では、歴史館やイメージング博物館、放射線科の実習室を見学し、展示される貴重なアナログ装置に興味津々であった。中国語講座ではバイリンガル講師の指導のもと、実践的な学習が行われ、プレゼンテーションでは英語で本学の紹介や日本文化の説明を行い、現地学生との交流が深められる良い機会となった。

学外研修では、新竹国泰病院と臺安病院にて、台湾医療施設における受付システム、撮像装置、診療方針やトータルヘルスケアに関する説明を受け、学生は日本との違いを積極的に学び、多くの気づきを得た。

Farewell party ではポスター作成やスピーチ発表を行い、別れを惜しむ程、学生同士の交流の深まりが見られた。本研修を通じて、学生は学術的・実践的な経験を得て、異文化理解を深め内面的成長も垣間見られた。今後の学生生活やキャリアの糧となることが期待される。

参加した学生は報告会において、次のように述べている。「海外研修を通じて、多くの人々と交流し、台湾の文化や街並みに触れ、その魅力を実感した。初めは緊張し、円滑なコミュニケーションが難しかったが、台湾のボランティア学生の温かい対応に支えられ、次第に積極的に会話できるようになった。英語に苦手意識があり海外への抵抗感もあったが、実際に参加することで、楽しく交流し、多くの観光地を巡る充実した時間を過ごした。終始笑顔でいられるほど楽しく、研修に参加して本当に良かったと感じている。」



活動最終日の報告会において参加者全員に終了証を交付



日台混合チームでの研修報告発表会

国際交流：ベトナム・フエ医科薬科大学一行の訪日

2024年9月2日から8日までの7日間、ベトナムのフエ医科薬科大学から学生4名、教員1名の計5名が本学を訪問した。この訪問は、島津奨学金を活用した本学の国際交流事業（ベトナム研修）の一環として実施され、毎年3月には本学の学生がフエ医科薬科大学を訪問し、相互交流を行っている。

訪日初日は、株式会社島津製作所の工場および島津資料館を見学した。2日目には、本学のラーニングコモンズにおいて、ベトナムの学生と本学の学生がグループディスカッションを実施した。ディスカッションでは、「診療放射線技師の魅力」および「患者の不安を軽減するためのコミュニケーション」について英語を交えながら意見交換を行った。3日目には、本学の学生がベトナムの学生に折り紙の折り方を教え、学内施設（特に放射線実験実習施設）を案内した。これにより、本学の学生はベトナムの学生生活や文化に触れる貴重な機会を得た。4日目から5日目にかけては、京都府立医科大学附属病院を見学した。ベトナム出身の診療放射線技師であるチャム技師の案内のもと、診断部門、核医学部門、治療部門（陽子線施設を含む）について説明を受けた。

同行した放射線科医を含め、多くの質問が寄せられた。また、ベトナムには存在しない陽子線治療施設では、大型の照射装置が回転する様子を目の当たりにし、参加者から驚きの声が上がった。

7日間という短期間ではあったが、異なる国に住む学生同士が、診療放射線技師という共通の目標を共有し、友情を深め、相互理解を促進する充実した時間となった。帰国の際には、2025年3月にベトナムで再会することを約束した。

主なスケジュール

- 1日目：入国、株式会社 島津製作所の工場および島津資料館の見学
- 2～3日目：京都医療科学大学 学内において交流、あずま屋でのBBQ
- 4～5日目：京都府立医科大学附属病院 見学
- 6日目：京都市内散策 7日目：帰国



京都医療科学大学 学生交流



京都府立医科大学附属病院 見学



島津製作所 及び 島津創業資料館見学



ベトナム(チョーライ病院研修、フエ医科薬科大学交流)研修

2025年2月25日(火)から3月6日(木)までの10日間、3年生12名(男子3名、女子9名)がベトナム(ホーチミン市・フエ市)において海外研修を実施し、チョーライ病院での研修及びフエ医科薬科大学との交流を行った。

前半の2月25日から2月28日までの4日間はホーチミン市に滞在し、チョーライ病院にて研修を受けた。

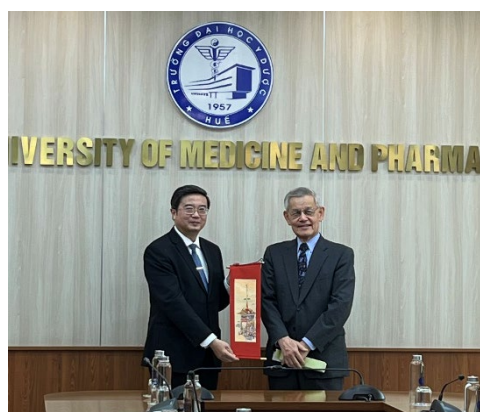
チョーライ病院は、経済的支援が必要な人々も含めて多くの方々が来院する南ベトナムの基幹病院であり、ベトナム戦争時に日本の支援にて建設された施設である。本学卒業生が、技術支援を続けてきたことで、本学とは非常に深い関係性がある病院であり、毎年、受け入れに対してとても好意的及び友好的に対応いただき、学生への対応も手厚く、これまで諸先輩方が築かれてきた関係性を肌で感じられる良い機会となっている。日本の基幹病院の10倍近い検査を実施するチョーライ病院では、日本のような手厚い接遇やプライバシーへの配慮は難しく、日本とベトナムの医療制度だけでなく実情を目の当たりにし、座学や携帯越しでは得られない貴重な体験と学びを得る貴重な機会となった。3月1日にはホーチミン市からフエ市へ空路で移動した。

後半の3月2日から3月5日までの4日間はフエ市に滞在し、フエ医科薬科大学との交流を行った。なお、本学の玉木学長が表敬訪問を実施し、両校の関係をより強固なものとした。フエでは、空港到着直後から現地学生の出迎えがあり、昨夏に日本で交流した学生と再会を喜び合う様子が見られた。2023年から始めたフエ医科薬科大学学生を招待し本学での相互交流にて、築かれた国際的な学生間の人間関係の構築が見られ本事業の効果と重要性を感じる瞬間であり、嬉しい限りであった。フエ医科薬科大学との交流では、病院実習に加え、同世代の学生との交流が充実していた。特に、フエ医科薬科大学の講堂で初めて英語によるプレゼンテーションを行い、原稿を見ずに堂々と発表する姿が見られた。学生たちは半年以上の期間を英語のプレゼンテーションやソーラン節の準備に充てており、全力を尽くして発表に臨んだ。

本研修は、最終学年である4年生への進級を控える学生が主体的・自主的に現地学生と交流することを目的としており、教員は支援に徹し、学生主体の研修となるよう運営した。研修では、他国の医療制度や診療放射線技師の役割について学ぶとともに、異文化に触れる機会を提供した。これらの経験を通じ、日本の文化や医療を客観的に捉えることが可能となり、学生が自身の学力・教養・英語力を省みる有用な機会となった。学内の講義や実験だけでは培うことが難しい非認知能力を高める有意義な研修となった。



チョーライ病院でお世話になった放射線科の皆様



フエ医科薬科大学 学長 Dr. Nguyen Vu Quoc Huy
と 本学 玉木学長が公式にご挨拶



フエ医科薬科大学でお世話になった皆様

留学生との交流会を実施

本学は技師教育養成大学として、同質的な文化に留まりやすく、視野の拡大が課題となっている。グローバル化の進展に伴い、異文化交流の機会を増やすことが重要であり、特に英語を実際使用する場の提供が有効である。

2023年度の初回実施では、学生の英語学習への積極性が向上し、「もっと英語でコミュニケーションを取りたかった」との声が多く寄せられた。2024年度は5月及び12月の2回の開催を計画し、英語学習意欲の定着と継続的な向上を目指した。また、留学生の募集にあたっては、2023年度と同様に立命館大学衣笠国際教育センターの協力を得て実施した。

本年度第1回目となる5月25日(土)の交流会には、20か国から27名の留学生が応募し、「食と健康と環境」をテーマに20のグループに分かれてディスカッションを行った。続く12月21日(土)の交流会には、約13か国から34名の留学生が参加し、本学の1年生と交流を深めた。交流会では少人数のグループに分かれディスカッションを実施し、交流会終了後には食堂においてお菓子や飲み物を用意し、自由な交流の場を設けた。これにより、参加者はより深い相互理解を促進し、盛況のうちに閉会した。

イベント終了後に実施した学生アンケートでは、以下のような感想が寄せられた。

「英語力の差に驚いた。英語を母語としない留学生が流暢に話していることに刺激を受け、自らの英語力の未熟さを痛感した。会話を通じて新たな考えに触れることができ、視野が広がった。」

「自身のリスニング能力を把握することができた。他国の学生との交流機会が多く、非常に貴重な経験となった。12月までにより英語を聞き取れるようになり、積極的にコミュニケーションを図ることを目指したい。」

英語に対して苦手意識を持つ学生が多く、1回目の交流会では留学生と十分なコミュニケーションが取れなかった学生がほとんどであった。しかし、その悔しい経験を糧に、多くの学生は12月の交流会に向けて語学学習への意識を高め、積極的なコミュニケーション行動を実現した。その結果、TOEICテストへの学習意欲向上やTOEIC IPテストのスコアの上昇が確認された。

2回の交流会を通じ、学生は「留学生を理解しよう」「積極的に話そう」という思いを高め、互いの共感の相乗効果により主体的なコミュニケーションを実現できた。特に、語学に対する苦手意識を持つ学生が「成長した」「達成感を得た」という成功体験を得たことは、コミュニケーション能力の向上や語学学習への動機付け・自信の向上に寄与するものであり、交流会を2回実施した効果として重要であると考えられる。

学内での縮小版グローバルコミュニケーション活動を通じ、1年生全員が均等に異文化交流を経験できることは意義深い。本企画を毎年1年生を対象に継続することにより、全学生が海外研修に近い経験を積み、大学の国際化を促進する望ましい環境が形成されることが期待される。次年度以降も本年度同様に英語での交流を実施し、学生が新たな世界を広げる契機となるよう継続する方針である。



主催者の山本講師と立命館大学の留学生



当日の留学生との交流の様子

主な年間行事の報告

2024 年 4 月 6 日	2024 年度 入学式を挙 令和 6 年度の入学式を執り行い、84 名の新入生が本学の学生としての第一歩を踏み出した。本年度の入学式はコロナウイルス感染拡大前の状態に戻り、ご来賓や保護者の方々も参加しての開催となった。式典では、玉木学長が壇上で新入生一人ひとりを固い握手で迎え、新入生を代表して小森一加が入学者宣誓を行った。  
2024 年 4 月 19 日	海外研修報告会(ベトナム) 3 月に実施された海外研修(ベトナム)に参加した学生による報告会が行われた。多くの在学学生や教職員が参加する中、研修に参加した学生は緊張しながらも、研修で得た学びや交流内容について丁寧に報告した。ベトナム研修をまとめたスライドショーも上映され、終始和やかな雰囲気だった。  
2024 年 4 月 20 日	学長杯スポーツ大会 本学では学年間の親睦及び新入生歓迎の目的でこの学長杯スポーツ大会を実施している。今年度は女子の参加が多いため、気軽に参加できる競技を中心に開催した。開催にあたり学長より「思い切り体を動かし汗を流し、全ての学生が一緒になって楽しみましょう！」とのメッセージがあった。 また、コロナ前では恒例行事であったスポーツ大会後のバーベキューが、久しぶりに再会され多くの参加学生が楽しむ姿が見られた。  

2024 年 5 月 18 日	解剖学特論(解剖学実習見学)(3年生) 本学では、愛知医科大学の協力のもと、医師や歯科医師にしか認められていない解剖学実習の見学を行う「解剖学特論」を開講している。診療放射線技師にとって解剖学は最も基本的で必要不可欠な学問であり、この講義を通じて解剖学の知識を確実に習得することを目的としている。 本講義を履修することで、学生は人体各部位の大きさや構造、その機能を深く理解することができる。また、臓器同士の位置関係や相互作用を学び、画像作成に必要な人体構造を立体的に把握するための基礎を身につけることができる。さらに、医療倫理についても学ぶ機会を提供し、医療人としての責任を意識する契機となっている。 本講義を見学した学生は、次のように感想を述べている。 「解剖学特論の実習を通じて、人体の構造や臓器を直接観察し、多くの学びを得た。血管一本一本の細さや繊細さに驚き、実習前の想像を超える複雑さを実感した。さらに、治療や検査における画像診断の重要性を改めて認識するとともに、診療放射線技師も広範な知識を必要とすることを実感した。ご献体となった方々の存在をより強く意識し、学びへの責任と感謝の気持ちを深めた。」 
2024 年 5 月 24 日	島津創業記念資料館の見学 本学では「建学の精神」のルーツを知るため、新入生が島津創業記念資料館(京都市中京区木屋町二条南)の見学を行っている。資料館では、明治8年(1875年)創業以降に製造された理化学器械や医療用X線装置・産業機器などの歴史的な文献・資料などを見学し、島津製作所の創業者 初代 島津源蔵、本学 創設者 二代目 島津源蔵の生い立ちや歩みを学んだ。これから放射線について学ぶ学生にとって、本学の建学の精神のルーツを知ることができ、また医療技術の進歩を肌で感じる良い機会となった。  

2024 年 6 月 1 日	就職懇談会実施 学友会(卒業生組織)主催の就職懇談会を4年生を対象にして開催した。学友会の歴史や活動についての紹介や、新卒者の就職活動体験談、公立病院・大学病院・検診施設・企業それぞれの特徴などをご説明いただいた。講演では女性技師の働き方や、技師長としての立場からのお話のほか、個別相談会も行われるなど、参加学生にとって、就職活動に向けたモチベーションを高めることができるイベントとなった。参加学生からは次のような感想が聞かれた。「臨床現場で診療放射線技師として働いておられる先輩方のお話を伺い、自分が就職した際のイメージがわいてきた。今日のお話を参考に、就職先を検討して行きたいと思う。」 
2024 年 8 月 3 日	学友会主催のBBQ大会を実施 6 月に実施された学友会主催の就職懇談会の第 3 部として、学友会主催の BBQ 大会が開催された。4 年生 32 名と卒業生約 20 名がバーベキューをしながら交流する場が設けられた。4 年生は 2 ヶ月間の長期病院実習を終えた直後ということもあり、解放感に溢れた笑顔で参加していた。卒業生との交流をはじめとして、就活の情報収集、同級生との思い出作りなどが行われ充実した時間となった。  
2024 年 9 月 13 日	島津製作所の見学(4 年生) 本学の学びの歴史の始まりの地である株式会社島津製作所を訪問した。医用機器工場、メディカルセンター、サイエンスプラザを見学し、最先端の技術に触れる貴重な機会となった。 工場では、普段目にする機会の少ない X 線管装置の製造過程や、血管造影システムの組立・調整作業を見学。メディカルセンターでは、展示されている最新の医用画像診断機器の機能や役割を目の当たりにし、医療分野の進展を直接感じることができた。 また、サイエンスプラザでは、タンパク質や微量成分の分析装置、脳血流測定装置など、さまざまな分野で利用されている最新の計測機器に触れることで、学生たちの興味が広がり、大学での学問だけでなく実社会での技術の応用にも視野を広げるきっかけとなった。 

2024 年 10 月 26 日	大瑠璃祭(学園祭) 第 54 回大瑠璃祭(学園祭)を開催した。当日は、近隣地域の皆さまやオープンキャンパスにご来場いただいた方々にも参加いただき、和やかな雰囲気のなかで開催された。 屋内ステージでは、福知山成美高等学校チアダンス部のパフォーマンス、園部高等学校吹奏楽部による演奏、学生自治会企画の〇×クイズやビンゴ大会など、バラエティに富んだプログラムが行われた。また、屋外では模擬店やゲーム広場が設けられ、訪れた皆さまに楽しいひと時を提供することができた。 園部高等学校吹奏楽部のみなさん 福知山成美高等学校チアダンス部のみなさん
2024 年 11 月 26 日	キャリア講座:「就職活動に向けて動き出そう、今から取り組んでおきたいこと」 大学 3 年生を対象に今年度の求人状況および就職活動の最新情報、病院施設の探し方や施設見学時のポイント、求人票の見方や履歴書の書き方ポイントなどが紹介された。講師からは、3 年生のこの時期の過ごし方について「油断せず、引き続き勉学に励むことの重要性」が強調された。また、就職活動を無理なく進めるためには早い段階で計画を立て、準備を進めることが大切であるとのアドバイスがあった。
2024 年 11 月 28 日	国際交流:海外研修発表会(台湾研修) 島津奨学金(学外活動奨学金)を利用して台湾研修に参加した学生による報告会を行った。報告会では、研修に参加した学生たちが研修先での活動や自身の学びを発表し、学生や教職員が熱心に耳を傾けた。

2024 年 12 月 2 日	キャリア講座:「求められる人になるための人間力アップ教室」 人材育成の専門家である青倉育子氏を講師に迎え、大学 2 年生向けキャリア教育の一環として「求められる人になるための人間力アップ講座」を開催した。 参加した学生からは、「人は第一印象が大事だと改めて分かったので、就職活動のためにも、これから自分に自信をつけて臨みたい」「これから臨床に出たときのことも考えながら、笑顔、声のトーンを意識していきたい」「自分の良いところをまず見つけて自分を好きになろうと思いました」などの前向きな声が寄せられ、貴重な学びの機会となったことがうかがえた。 
2024 年 12 月 16 日	キャリア講座:「着こなし講座」 1 年生を対象に「着こなし講座」を実施した。本講座は、就職活動に向けたスーツ選びや着こなし方、メンテナンス方法、さらに社会人としてのマナーや身だしなみについて学ぶことを目的としている。 講師には、紳士服販売チェーン「洋服の青山」よりマネージャーの相宗愛氏を迎え、スーツ選びのポイントや状況に応じた着こなし術について具体例を交えながら丁寧に指導いただいた。また、スーツのメンテナンス方法や印象を良くする姿勢、身のこなしの大切さについても詳しく教えていただき、これから迎える臨床実習や病院見学、就職活動の際に大いに役立つ内容となった。 
2024 年 12 月 27 日	島津メディカルシステムズ:1day 仕事体験(3 年生) 本学 3 年生を対象に、医療機器メーカーとして国内外で活躍する株式会社島津メディカルシステムズの協力を得て、1day 仕事体験を行った。職場体験を通して幅広い視野や仕事の幅を広げることにつながっている。 

2025 年 1 月 13 日	国際交流:韓国・新丘大学の学生が来校 韓国・新丘大学の学生が来校した。本交流は、日韓の診療放射線技師教育の違いを学び合うとともに、学生同士の国際的な視野を広げる貴重な機会となった。当日は、本学の松尾悟教授が「日本の診療放射線技師教育の概要」について講義を実施。その後、本学学生が英語で学内を案内し、教室や実験室について説明した。特に実験装置の紹介では、新丘大学の学生も熱心に質問を重ね、活発なコミュニケーションを通じて理解を深めた。 
2025 年 2 月 9 日	島津製作所主催:レントゲン祭に参加 株式会社島津製作所三条工場で毎年開催されているレントゲン祭に、本学の3年生が参加した。レントゲン祭は、X線を発見したヴィルヘルム・レントゲン博士の功績を称え、同氏の命日である2月1日にちなみ、株式会社島津製作所で毎年行われており、今回で第102回目の開催となる。 慰霊祭では、島津製作所社長 山本靖則氏が「レントゲン博士の生い立ちや、X線発見、実験に没頭された日々、X線の特許も取らずノーベル賞以外の賞は辞退された」などのエピソードを交え祭詞を述べ、その後献花が行われ、本学学生も黙祷を捧げた。  
2025 年 3 月 8 日	2024 年度 学位授与式を举行 今年度は87名の卒業生が、新たな門出を迎えた。 式典では、玉木学長より学位記が、上田理事長からは記念品が卒業生一人ひとりに手渡された。また、南丹市長をはじめとするご来賓の皆さま、卒業生のご家族の皆さまにもご列席いただき、厳かなながらも温かみのある式典となった。  

地域貢献

日程	内容	詳細等
2024 年 11 月 6～8 日	勤労体験学習 園部中学校の 2 年生 2 名の職場体験を受け入れた。職場体験では、図書館司書の仕事や教務課の教卓機器操作や Forms を活用したアンケート作成、総務課の郵便物の仕分け、大学広報の HP 原稿作成などを体験した。 	園部中学校 2 年生 2 名
2024 年 11 月 23 日	「地域ふれあいサイエンスフェスタ 2024」ブース参加 本学から教職員と在学生 5 名が参加した。この催しは亀岡市教育研究所などが主催し、科学やものづくりの楽しさを体験し、理科への興味関心を高めることを目的としている。本学は地域貢献活動として 2011 年から出展参加している。 本年度も多くの方にお越しいただき、超音波検査の体験やからだのパズルなど、子供から大人まで楽しい時間を過ごしていただいた。 	開催場所： 亀岡市 ガレリア
2024 年 11 月 29 日	体験学習 近隣の園部第二小学校 2 年生 8 名が、生活科「とび出せ！町のたんけんたい」学習の一環として本学の見学に来校した。当日は、元気いっぱい小学生たちがキャンパスに集まり、医療機器のデモンストレーションをはじめ、人体模型や所蔵品の見学した。 	園部第二 小学校 2 年生 8 名

2024 年 12 月 11 日	京都光華高校」医療貢献コースの 1 年生の受入 昨年に引き続き、医療貢献コースの 1 年生の大学見学を受け入れた。当日は、X 線実験フロアでは、マンモグラフィ装置や透視撮影装置を実際に見学しながら、医療機器への理解を深めた。また、MRI フロアでは、MRI 装置の特性やレントゲン・CT との違いについて学び、撮影時の音や電磁場を体験するなど、具体的で分かりやすい学びの場となった。 学長によるミニ講義や学食でのランチ体験を通じて、大学生活の一端に触れていただいた。 見学終了後には、「MRI の実験室が面白かった！」「実験室での体験が楽しかったです！」という嬉しい声をいただいた。		京都光華高校
-----------------------------	--	--	---------------

学生募集活動

入試日程

2025 年度入試より、総合入試の日程を追加し、Ⅰ期・Ⅱ期の 2 回に分けて実施することとした。これに伴い、一般後期入試は実施しないこととした。2024 年度の入試日程は、以下のとおり。

区分	日程	会場
総合入試Ⅰ期	2024 年 9 月 28 日	本学
総合入試Ⅱ期	2024 年 10 月 19 日	本学
推薦入試	2024 年 11 月 16 日	本学、大阪、名古屋
社会人入試	2024 年 11 月 16 日	本学
一般入試(前期)	2025 年 1 月 25 日	京都、大阪、名古屋、東京、福岡

高校教員向け説明会

2024 年 5 月 24 日、本年度から新たな企画として、高校教員向けの説明会を株式会社 島津製作所 研修センター(京都:三条)を借りて実施した。当日は京滋の高校教員が参加し、大学紹介、入試ガイダンス、支援体制、入学前教育動画、ショールーム見学を行った。参加教員から、「文系出身でも学べることは、本校生徒にも受験機会が増えるのではないかと思った」といった感想が寄せられた。



オープンキャンパスの開催

本学にとって、オープンキャンパスは学生募集活動における重要なイベントである。特に、本学のオープンキャンパス参加者の出願率は非常に高く、学生募集活動において中心的な役割を担っている。

2024年度は、参加者に普段の学内の様子をより実感してもらうため、平日開催日を追加した。これにより普段の教育環境を体験できる機会を提供した。

本学では、在学生在がスタッフとして参加し、オープンキャンパス当日は小規模校ならではの強みを活かしながら個別相談に対応している。具体的には、在学生在が一人ひとりに寄り添い、丁寧な相談対応を行うことで、参加者の満足度向上につなげている。

さらに、7月、8月の開催日には学友会の支援の下、実験装置の体験企画も実施している。本企画では、臨床現場で勤務する診療放射線技師が、患者への対応や検査の実際について説明し、診療放射線技師の仕事について理解を深める機会を提供している。

次年度以降も、これまでと同様の方針で活動を継続する予定である。なお、2024年度の開催内容について、以下に報告する。

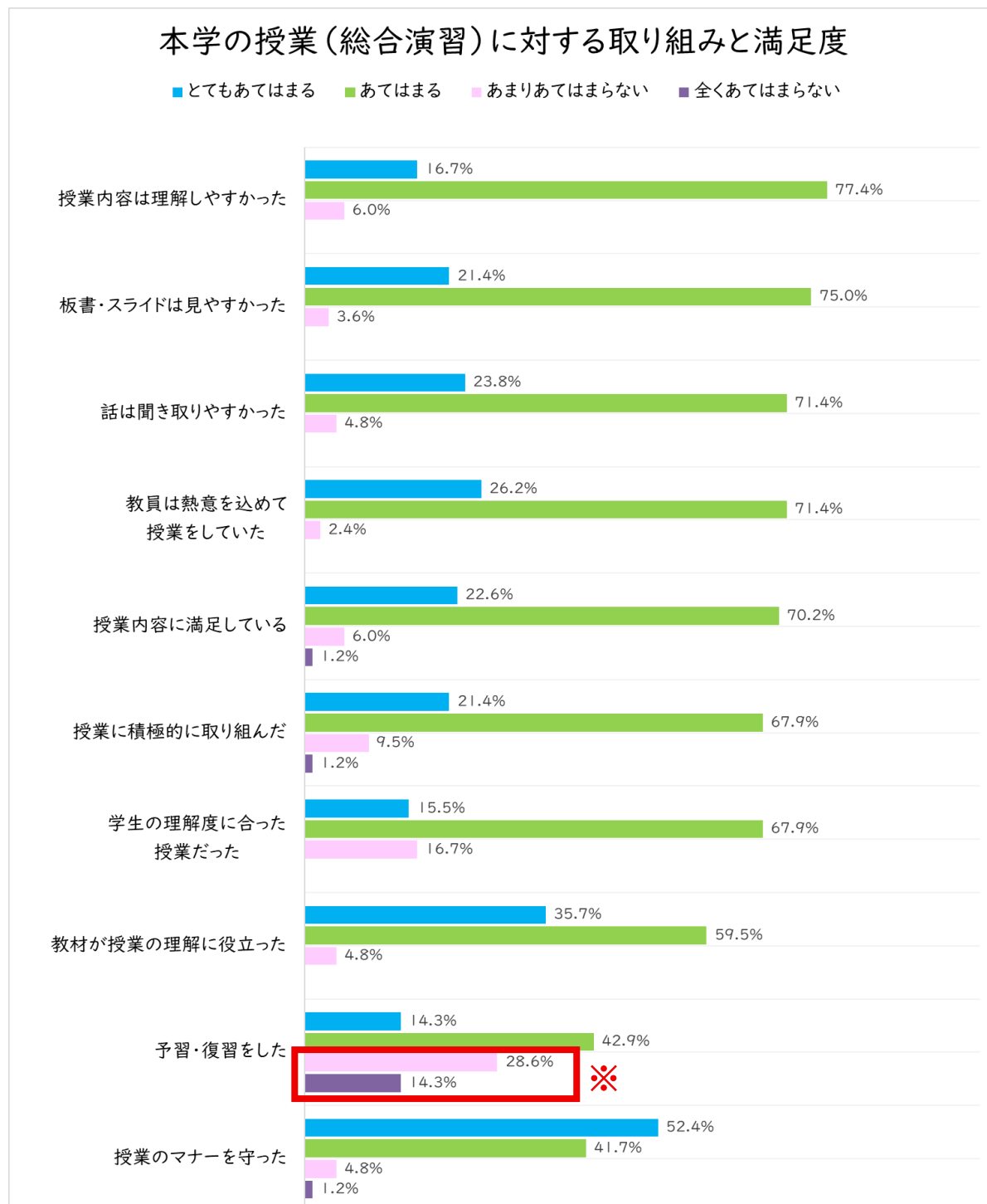
開催日程	開催日	主な内容
第1回	3月23日(土)	卒業生講演、在在学生による実験室体験、在在学生交流(相談)
第2回	6月16日(日)	卒業生講演、教員による実験室体験、在在学生交流(相談)
第3回	7月13日(土)	学友会(奈良支部)協賛による実験室体験、在在学生交流(相談)
第4回	7月16日(火)	平日開催、リアルキャンパス体験、在在学生交流(相談)
第5回	8月3日(土)	卒業生講演、教員による実験室体験、在在学生交流(相談)
第6回	8月4日(日)	卒業生講演、教員による実験室体験、在在学生交流(相談)
第7回	8月10日(土)	学友会(奈良支部)協賛による実験室体験、在在学生交流(相談)
第8回	8月24日(土)	卒業生及び教員による実験室体験、入試対策講座、在在学生交流(相談)
第9回	10月5日(土)	卒業生及び教員による実験室体験、入試対策講座、在在学生交流(相談)
第10回	10月26日(土)	理工系高校向け体験講座、入試対策講座、在在学生交流(相談)
第11回	12月14日(土)	在在学生による実験室体験、在在学生交流(相談)



本学の教育活動に対するアンケート調査の結果

アンケート対象者:2024 年度 4 年卒業 87 名(国家試験受験者)

回答数:84 回答率:97% 実施日:2025 年 2 月 21 日



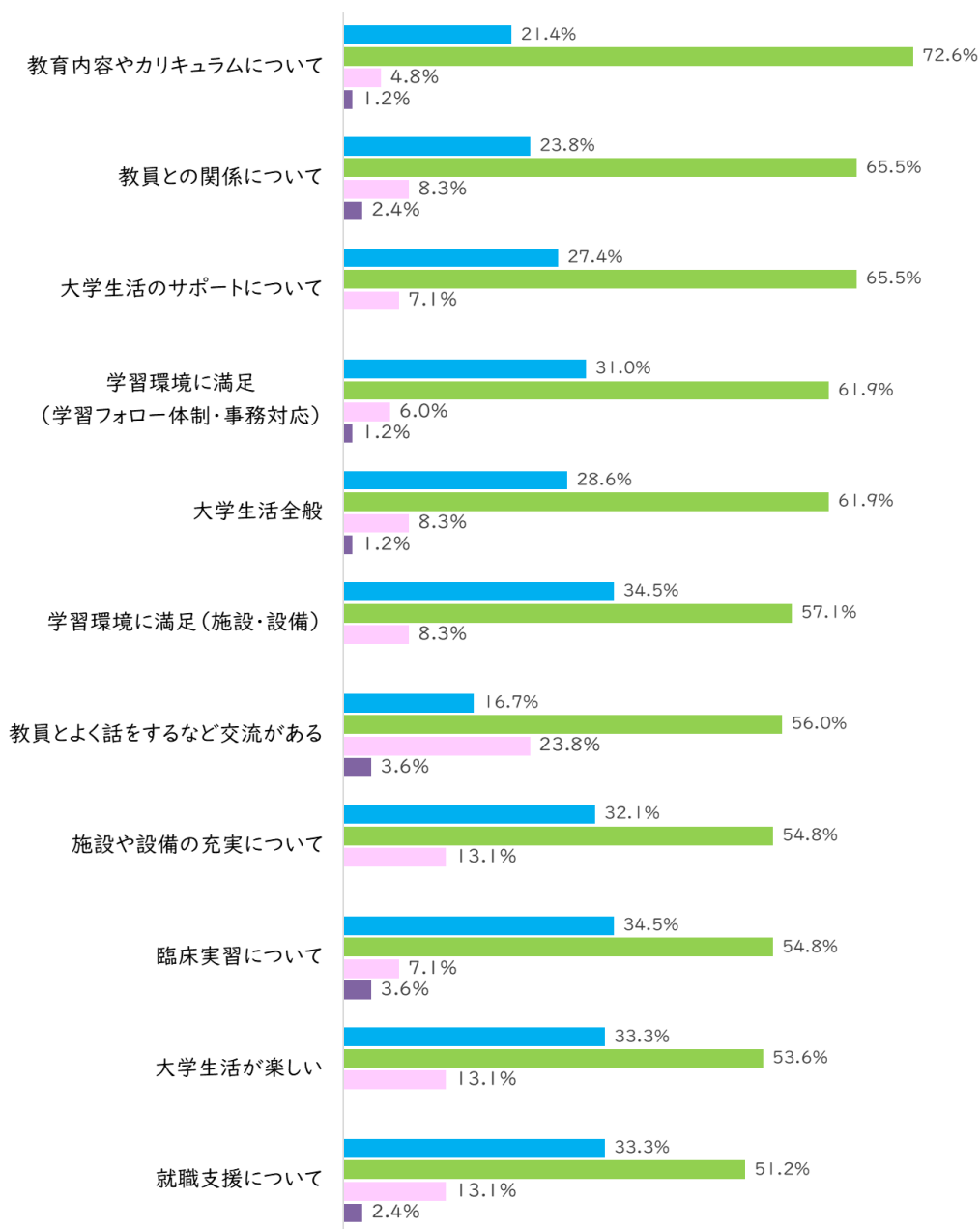
※原因の推測 2021年4月入学

文科省よりコロナによる配慮通達有

単位認定基準が甘く勉強に取り組む体制が出来ていなかった

本学の教育活動に対する各項目への満足度

■ とても満足 ■ 満足 ■ あまり満足でない ■ 不満



外部資金の獲得状況

種類	研究課題名	区分	研究代表者
科研費	がんの放射線や免疫療法に伴う心血管障害の画像評価に関する研究	基盤研究(C)	玉木長良
科研費	空洞電離箱線量計における極性効果補正方法の評価および改善	若手研究	霜村康平
科研費	CBCT 画像ベースの装置との干渉を考慮したオンライン適応放射線治療システムの開発	基盤研究(C)	澤田晃
科研費	肺がん患者への迅速な診断・治療を実現するモレキュラーコンバーチブルプローブの開発	若手研究	屋木祐亮
科研費	XR 技術による診療放射線技師の医療安全教育革命とその効果検証	基盤研究(C)	水田正芳
科研費	非侵襲脳循環代謝評価を目的とした臨床用マルチパラメトリック ASL の開発	若手研究	石田翔太
科研費	リポソームをプラットフォームとした核医学治療/セラノスティクス医薬品の創薬研究	基盤研究(C)	梅田泉
その他(小笠原敏晶記念財団)	国際研究集会出现助成	—	屋木祐亮

FD・SD活動

研修日	研修名称	主催
2024 年 4 月 1 日	定例セミナー「学生募集と広報戦略」(録画視聴)	公益社団法人 私学経営研究会
2024 年 5 月 12 日	大学運営のためのアンガーマネジメント	寺子屋朝日
2024 年 5 月 15 日	地域事務担当者向け説明会	大阪ガーデンパレス 共済業務課

2024 年 5 月 16 日	研究支援体制強化セミナー2024	株式会社エデュース
2024 年 5 月 19 日	進研アドオンラインセミナー:第1回「高校の先生方が本当に欲しい情報とは？」	進研ゼミ
2024 年 5 月 27 日	私学法令改正に伴う内部統制システムの整備について	私学経営研究会
2024 年 5 月 29 日	進研アドオンラインセミナー:第2回「オープンキャンパス成功のセオリー」	進研ゼミ
2024 年 6 月 12 日	進研アドオンラインセミナー:第 3 回「志望したくなる大学案内はこう作る」	進研ゼミ
2024 年 6 月 20 日	『「年内入試」 オンラインセミナー 良い総合型選抜の作り方』	豊島継男事務所×アロー教育総合研究所共催
2024 年 6 月 21 日	「第 8 回 これからの大学を支える若手職員研修会」①(オンライン)	NPO 法人学生文化創造
2024 年 6 月 21 日	学校法人会計の仕組みと実務(大阪ガーデンパレス)	私学経営研究会
2024 年 6 月 22 日	「第 8 回 これからの大学を支える若手職員研修会」②(オンライン)	NPO 法人学生文化創造
2024 年 6 月 28 日	令和6年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会(オンライン)	文部科学省
2024 年 6 月 28 日	第 22 回 学術情報ソリューションセミナー 変革の時、AI と OA の チャレンジ	株式会社サンメディア
2024 年 7 月 3 日	『これを見れば夏イベント後の動き方がわかる！ 今年度募集も、超早期募集もまるっと解説セミナー』	株式会社エデュース
2024 年 7 月 4 日	2024 科研費講演会	株式会社エデュース
2024 年 7 月 5 日	退職金財団第 13 次掛金率説明会	退職金財団

2024 年 7 月 8-9 日	マネジメントの基本を学ぶ 管理職基礎研修 (M-BL)【2日】	株式会社リクルートマネ ジメントソリューションズ
2024 年 7 月 9 日	評価充実協議会	公益財団法人日本 高等教育評価機構
2024 年 7 月 22 日	令和6(2024)年度 科学研究費助成事業等説明会	文部科学省・ 日本学術振興会
2024 年 7 月 23 日	大学経営を支援するマネジメントセミナー～環境の変化 に適応した大学経営とは～監査法人トーマツ ZOOM	監査法人トーマツ
2024 年 7 月 23 日	薬物乱用防止に係る大学等関係者セミナー	京都府健康福祉部 薬務課
2024 年 8 月 23 日	休業手当の支払いについて	株式会社キャリアパワ ー
2024 年 8 月 28 日	「2025 年度進学アクセスオンライン」に関するオンラ インセミナー	株式会社マイナビ
2024 年 9 月 2 日	合理的配慮提供義務に関する研修会	弁護士法人 古家野法律事務所
2024 年 9 月 9 日	令和6年度京都府安全安心推進協議会総会	京都府安全安心推進協 議会(京都府警察本部)
2024 年 9 月 10 日	令和6年度助成部相談会・説明会	日本私立学校振興・ 共済事業団
2024 年 9 月 11 日	令和6年度助成部相談会・説明会	日本私立学校振興・ 共済事業団
2024 年 9 月 18 日	学校広報ご担当者様向け「Q&A 回:総合型選抜入 試で選ばれる学校になるためのポイント」	株式会社ライフマップ
2024 年 9 月 25 日	年内入試受験者を確保するための誤ったアプロー チ 10 選	株式会社マイナビ

2024 年 9 月 26 日	SNS とデータを駆使した大学経営戦略セミナー	株式会社 KEI アドバンス
2024 年 10 月 4 日	志望校登録を軸とした新たな入試広報戦略	株式会社 スタディプラス
2024 年 10 月 7 日	採用選考をめぐる法的留意点とトラブル防止策	日本経営協会 関西本部
2024 年 10 月 9 日	学校法人における予算編成留意点(大阪ガーデンパレス)	私学経営研究会
2024 年 10 月 11 日	退職金財団新システム説明会	退職金財団
2024 年 10 月 23 日	学生募集広報デジタルマーケティング	株式会社進研アド
2024 年 10 月 31 日	研究校正シンポジウム 新たな研究不正行為への対応と科学の公正性の確保に向けて	文部科学省 研究公正推進事業
2024 年 9 月～10 月	プロモーション戦略セミナー(録画視聴)	株式会社マイナビ
2024 年 9 月 11 日 ～10 月 31 日	研究倫理コンプライアンス研修会	株式会社エデュース
2024 年 11 月 1 日	第 18 回大学のグローバル戦略シンポジウム	一般社団法人 国立大学協会
2024 年 11 月 19 日	研究支援の最新トレンド 2024 Vol.2	株式会社エデュース
2024 年 11 月 29 日	60 歳以降の再雇用制度・規定の見直し・運用の実務	株式会社キャリアパワ ー
2024 年 11 月末日	「大学等の職員がおさえておくべき「デジタルスキル」(コンテンツマーケティング入門編)」セミナー(録画視聴)	教育人財開発機構

2024 年 12 月 6 日	就業規則の見落としがちな注意点	株式会社キャリアパワー
2025 年 1 月 16 日	学校法人セミナー改正私学法施行に伴う実務対応のポイント	監査法人ユウワット
2024 年 11 月 1 日～ 2025 年 1 月 31 日	年末調整操作セミナー	メシウス株式会社
2025 年 2 月 20 日	令和6年度学校法人の運営等に関する協議会	文部科学省
2025 年 2 月 27 日	生成 AI の基礎知識と校務・経営への具体的な活用方法	教育人財開発機構
2025 年 2 月 28 日	大学設置基準改正への対応「設置の趣旨等を記載した書類」の作成実務	私学労務研究会

財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

ア)貸借対照表の状況と経年比較

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
固定資産	2,734,167,949	3,591,295,780	3,511,133,645	3,397,805,027	3,284,124,852
流動資産	821,274,358	947,738,288	1,055,189,995	1,055,702,374	1,136,103,547
資産の部合計	3,555,442,307	4,539,034,068	4,566,323,640	4,453,507,401	4,420,228,399
固定負債	78,913,982	84,752,039	86,497,571	89,872,122	97,668,651
流動負債	214,341,465	218,560,272	222,773,687	204,352,718	232,940,207
負債の部合計	293,255,447	303,312,311	309,271,258	294,224,840	330,608,858
基本金	4,185,135,824	5,152,971,869	5,216,686,605	5,213,933,154	5,206,358,315
繰越収支差額	△ 922,948,964	△ 917,250,112	△ 959,634,223	△ 1,054,650,593	△ 1,116,738,774
純資産の部合計	3,262,186,860	4,235,721,757	4,257,052,382	4,159,282,561	4,089,619,541
負債及び純資産の部合計	3,555,442,307	4,539,034,068	4,566,323,640	4,453,507,401	4,420,228,399

イ)財務比率の経年比較

比率名	算出方法	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
固定資産 構成比率	固定資産	76.90	79.12	76.89	76.30	74.30
	総資産					
有形固定資産構 成比率	有形固定資産	73.94	55.90	53.86	52.71	50.47
	総資産					
特定資産 構成比率	特定資産	2.18	22.77	22.67	23.32	23.68
	総資産					
流動資産 構成比率	流動資産	23.10	20.88	23.11	23.70	25.70
	総資産					
固定負債 構成比率	固定負債	2.22	1.87	1.89	2.02	2.21
	総負債＋純資産					
流動負債 構成比率	流動負債	6.03	4.82	4.88	4.59	5.27
	総負債＋純資産					
内部留保 資産比率	運用資産-総負債	16.33	36.76	38.36	39.99	41.58
	総資産					
運用資産 余裕比率	運用資産-外部負債	97.16	245.12	250.88	235.10	265.15
	経常支出					
純資産 構成比率	純資産	91.75	93.32	93.23	93.39	92.52
	総負債＋純資産					
繰越収支差額構 成比率	繰越収支差額	-25.96	-20.21	-21.02	-23.68	-25.26
	総負債＋純資産					
固定比率	固定資産	83.81	84.79	82.48	79.96	80.30
	純資産					
固定長期 適合率	固定資産	81.83	83.12	80.84	79.96	78.43
	純資産＋固定負債					
流動比率	流動資産	383.16	433.63	473.66	516.61	487.72
	流動負債					
総負債比率	総負債	8.25	6.68	6.77	6.61	7.48
	総資産					

負債比率	総負債	8.99	7.16	7.26	7.07	8.08
	純資産					
前受金保有率	現金預金	490.24	505.39	535.58	627.94	529.11
	前受金					
退職給与引当 特定資産保有率	退職給与引当特定資産	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	退職給与引当金					
基本金比率	基本金	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	基本金要組入額					
減価償却比率	減価償却累計額（図書除く）	41.70	43.33	48.11	49.66	54.34
	減価償却資産取得価格					
積立率	運用資産	55.70	74.88	74.15	74.56	72.08
	要積立額					

②事業活動収支計算書関係

ア)事業活動収支計算書の状況と経年比較

科目		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	602,951,000	617,746,000	625,757,000	616,564,000	606,105,000
	手数料	11,305,100	9,099,600	9,929,700	5,797,000	7,772,500
	寄付金	27,475,000	978,196,784	4,909,230	3,600,000	1,321,000
	経常費等補助金	110,301,056	93,148,080	91,982,468	95,250,315	87,160,868
	付随事業収入	0	2,000,000	100,000	0	0
	雑収入	19,892,893	11,749,305	31,743,773	15,840,850	5,512,131
	教育活動収入計	771,925,049	1,711,939,769	764,422,171	737,052,165	707,871,499
	事業活動支出の部					
	人件費	406,380,295	381,660,176	375,136,395	396,292,954	375,903,804
	教育研究経費	335,278,184	307,908,444	329,450,243	362,331,935	314,186,548
	管理経費	104,489,726	101,426,219	104,454,897	107,159,112	119,927,744
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	846,148,205	790,994,839	809,041,535	865,784,001	810,018,096
	教育活動収支差額	△ 74,223,156	920,944,930	△ 44,619,364	△ 128,731,836	△ 102,146,597
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	16,624	9,938	31,200,431	30,338,363	32,452,897
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	16,624	9,938	31,200,431	30,338,363	32,452,897
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	16,624	9,938	31,200,431	30,338,363	32,452,897
	経常収支差額	△ 74,206,532	920,954,868	△ 13,418,933	△ 98,393,473	△ 69,693,700

特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	133,158,217	52,611,000	34,749,639	718,143	1,428,172
	特別収入計	133,158,217	52,611,000	34,749,639	718,143	1,428,172
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	3,637,130	30,971	81	94,491	1,397,492
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	3,637,130	30,971	81	94,491	1,397,492
	特別収支差額	129,521,087	52,580,029	34,749,558	623,652	30,680
	基本金組入前当年度収支差額	55,314,555	973,534,897	21,330,625	△ 97,769,821	△ 69,663,020
基本金組入額合計		△ 185,983,277	△ 967,836,045	△ 63,714,736	0	△ 10,000,000
当年度収支差額		△ 130,668,722	5,698,852	△ 42,384,111	△ 97,769,821	△ 79,663,020
前年度繰越収支差額		△ 792,280,242	△ 922,948,964	△ 917,250,112	△ 959,634,223	△ 1,054,650,593
基本金取崩額		0	0	0	2,753,451	17,574,839
翌年度繰越収支差額		△ 922,948,964	△ 917,250,112	△ 959,634,223	△ 1,054,650,593	△ 1,116,738,774

(参考)

事業活動収入計	905,099,890	1,764,560,707	830,372,241	768,108,671	741,752,568
事業活動支出計	849,785,335	791,025,810	809,041,616	865,878,492	811,415,588

イ) 財務比率の経年比較

比率名	算出方法	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
人件費比率	人件費	52.64	22.29	47.15	51.64	50.78
	経常収入					
人件費依存率	人件費	67.40	61.78	59.95	64.27	62.02
	学生生徒等納付金					
教育研究経費比率	教育研究経費	43.43	17.99	41.41	47.22	42.44
	経常収入					
管理経費比率	管理経費	13.54	5.92	13.13	13.96	16.20
	経常収入					
借入金等利息比率	借入金等利息	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	経常収入					
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額	6.11	55.17	2.57	-12.73	-9.39
	事業活動収入					
基本金組入後収支比率	事業活動支出	118.17	99.28	105.53	112.73	110.89
	事業活動収入-基本金組入額					
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	78.11	36.08	78.65	80.35	81.87
	経常収入					
寄附金比率	寄附金	15.71	57.98	4.21	0.48	0.19
	事業活動収入					
経常寄附金比率	教育活動収支の寄附金	3.56	57.14	0.62	0.47	0.18
	経常収入					
補助金比率	補助金	13.84	5.35	11.08	5.00	11.75
	事業活動収入					
経常補助金比率	教育活動収支の補助金	14.29	5.44	11.56	12.41	11.77
	経常収入					
基本金組入率	基本金組入額	20.55	54.85	7.67	0.00	1.35
	事業活動収入					
減価償却額比率	減価償却額	17.51	19.51	18.10	16.66	16.89
	経常支出					
経常収支差額比率	経常収支差額	-9.61	53.80	-1.69	-12.82	-9.41
	経常収入					

③資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
学生生徒等納付金収入	602,951,000	617,746,000	625,757,000	616,564,000	606,105,000
手数料収入	11,305,100	9,099,600	9,929,700	5,797,000	7,772,500
寄付金収入	142,232,000	74,261,000	34,960,000	3,679,000	1,408,000
補助金収入	125,261,955	94,397,080	91,982,468	95,250,315	87,160,868
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	0	2,000,000	100,000	0	0
受取利息・配当金収入	16,624	9,938	31,200,431	30,338,363	32,452,897
雑収入	19,892,893	11,749,305	31,743,773	15,840,850	5,512,131
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	161,680,000	185,645,000	191,495,000	165,030,000	212,075,000
その他の収入	35,123,817	34,127,503	13,634,656	39,566,945	13,979,939
資金収入調整勘定	△ 229,594,176	△ 167,684,580	△ 210,862,365	△ 203,842,015	△ 165,067,228
前年度繰越支払資金	830,358,977	796,396,770	938,226,523	1,025,602,830	1,036,286,934
収入の部合計	1,699,228,190	1,657,747,616	1,758,167,186	1,793,827,288	1,837,686,041

支出の部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
人件費支出	401,383,475	374,528,063	373,390,863	392,918,403	368,107,275
教育研究経費支出	204,702,812	171,290,937	200,547,878	231,452,362	191,490,483
管理経費支出	86,654,781	83,751,367	87,107,704	93,703,464	105,779,622
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	78,050,000	25,163,386	0	0	0
設備関係支出	41,290,014	23,873,901	59,845,978	26,960,779	15,362,588
資産運用支出	21,768,170	13,722,738	10,025,532	17,661,031	8,673,129
その他の支出	108,926,167	51,056,827	27,364,570	30,630,516	45,702,313
資金支出調整勘定	△ 39,943,999	△ 23,866,126	△ 25,718,169	△ 35,786,201	△ 19,530,140
翌年度繰越支払資金	796,396,770	938,226,523	1,025,602,830	1,036,286,934	1,122,100,771
支出の部合計	1,699,228,190	1,657,747,616	1,758,167,186	1,793,827,288	1,837,686,041

イ)活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

科 目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	771,925,049	763,034,985	764,394,941	737,052,165	707,871,499
教育活動資金支出計	692,741,068	629,570,367	661,046,445	718,074,229	665,377,380
差引	79,183,981	133,464,618	103,348,496	18,977,936	42,494,119
調整勘定等	△ 35,131,913	22,402,833	9,050,139	△ 25,502,537	32,320,666
教育活動資金収支差額	44,052,068	155,867,451	112,398,635	△ 6,524,601	74,814,785
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	129,717,899	46,218,000	30,078,000	79,000	87,000
施設整備等活動資金支出計	119,340,014	49,037,287	59,845,978	26,960,779	15,362,588
差引	10,377,885	△ 2,819,287	△ 29,767,978	△ 26,881,779	△ 15,275,588
調整勘定等	△ 83,659,612	△ 5,164,582	△ 22,846,038	19,115,234	1,329,015
施設整備等活動資金収支差額	△ 73,281,727	△ 7,983,869	△ 52,614,016	△ 7,766,545	△ 13,946,573
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	△ 29,229,659	147,883,582	59,784,619	△ 14,291,146	60,868,212

その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	28,959,079	13,768,265	39,600,507	44,687,943	34,885,821
その他の活動資金支出計	33,691,627	19,822,094	12,008,819	19,712,693	9,940,196
差引	△ 4,732,548	△ 6,053,829	27,591,688	24,975,250	24,945,625
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	△ 4,732,548	△ 6,053,829	27,591,688	24,975,250	24,945,625
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	△ 33,962,207	141,829,753	87,376,307	10,684,104	85,813,837
前年度繰越支払資金	830,358,977	796,396,770	938,226,523	1,025,602,830	1,036,286,934
翌年度繰越支払資金	796,396,770	938,226,523	1,025,602,830	1,036,286,934	1,122,100,771

ウ)財務比率の経年比較

比率名	算出方法	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額	-9.62	53.80	-5.84	-17.47	-14.43
	教育活動収入計					

(2) その他

①資産運用の状況

1. 2024 年度島津基金事業計画

2022 年 3 月に株式会社島津製作所様より、株式(株式時価 948,884,784 円)をご寄付いただき、島津基金を設置した。基本元本の取り崩しは行わず、島津奨学金給付、教育研究施設、設備等の充実など、教育研究に利用分野を限定しており、以下の内容で運用にのぞんだ。

1) 配当金の受取予定

島津基金の 2024 年度配当金受取は、26,000,000 円を見込んだ。

2) 島津奨学金の給付予定:20,200,000 円

島津奨学金の種類と配分について、2023 年度に見直しを行った。成績だけでなく多様な活動に対する支援を充実させるべく、新たな支援金を設定した。

資格取得奨励・就職活動支援・家計急変/緊急支援・国際交流支援・学会参加支援
定期試験国家試験学修支援

3) 教育改革支援給付(学長裁量経費):1,800,000 円

教育・研究活動の一層の活性化並びに教育研究環境の整備を目的として、教職員からの公募による教育改革事業を学長が審査し助成を実施。教職員からの公募は年間を通じて行い、活気あふれる大学を目指して積極的な活用を行うこととした。

4) 教育研究用設備の充実:8,500,000 円

教育・研究活動に使用する設備、機器等について、教員の申請にもとづき選定、導入を行うことにより、本学の教育研究設備の充実を図る。

2. 2024 年度島津基金運用結果

島津基金運用規程、島津奨学金に関する規程および 2024 年度島津基金事業計画に基づき、島津基金を、第 3 号基本金に組み入れ、同号の基本金引当資産として管理運用した。

2024 年度の配当金は、31,868,144 円であった。配当金は、島津奨学金として次のとおり支出した。(合計 20,540,817 円を支出)

- ・特待新入生奨学金 1,350,000 円
- ・特待生奨学金 4,950,000 円
- ・資格取得奨励奨学金 4,615,840 円
- ・就職活動支援給付金 340,000 円
- ・経済支援奨学金 2,100,000 円
- ・海外交流奨学金 3,946,334 円
- ・学修支援金 787,400 円
- ・教育改革支援金 2,451,243 円

②学校債の状況

本学園では、学校債を発行していない。

③寄付の状況

2025 年 3 月末現在

寄付区分		件数	金額
現金寄付	一般寄付金	17 件	1,333,000 円
	特別寄付金	0 件	0 円

④補助金の状況

2025 年 3 月末現在

寄付区分		件数	金額
国庫補助金	授業料等減免補助金	2 件	24,821,700 円
	経常費補助金	2 件	62,311,000 円
府補助金	京都府結核費補助金	1 件	28,168

⑤収益事業の状況

本学園では、収益事業を実施していない。

(3)経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

1. 経営状況の分析

本学は、昭和 2 年に日本初のエックス線技師教育機関「島津レントゲン技術講習所」として設立されて以来、診療エックス線技師制度の変遷に対応しつつ、専修学校、専門学校、短期大学、四年制大学と形態を変えながら、診療放射線技師の養成一筋に歩んできた。創立からまもなく 100 年を迎える、本邦で最も長い歴史を有する診療放射線技師養成学校である。

一方で、同様の養成学校は年々増加し、現在全国で 55 校を数えるに至っている。18 歳人口の減少とともに大学全入時代が現実となり、志願者数の確保については厳しい状況が続いている。このような中にあっても、医療現場からは高度医療技術者への期待が高まっており、国民の保健医療向上に貢献する有為な人材の育成が本学の重要な使命となっている。

現在、本学の経営は健全に維持されているが、私立大学全体に目を向けると、4 割以上が定員割れ、3 割以上が赤字という厳しい実態が見られる。こうした事業環境の変化を踏まえ、早急に今後の対策を検討・実行していくことが求められている。

2. 経営上の成果と課題

本学が育成を目指すのは、専門知識・技術に加え、高いコミュニケーション能力、幅広い教養、豊かな人間性、国際的視野を備えた診療放射線技師である。

この実現のため、最新の画像診断装置の導入、島津奨学金制度の創設、海外大学との学術交流、新校舎の建築、人工芝グラウンドの整備など、教育環境の充実を積極的に進めてきた。これまでに5,000名を超える卒業生を輩出し、現在も多くの卒業生が全国の医療機関で活躍しており、本学は放射線医療の発展に貢献してきた。

しかしながら、京都市郊外に立地する小規模単科大学であるという特性から、最大の課題は「入学希望者の安定的な確保」にあると認識している。

3. 今後の方針・対応方策

新型コロナウイルス感染症の収束と景気回復により、医療・看護・薬学といった資格系分野の人気の相対的に低下しつつある。診療放射線技師についても、テレビドラマ「ラジエーションハウス」の影響による一時的な認知向上は見られたものの、現在は再び認知度が低下傾向にある。

このような状況を踏まえ、2024年(2025年度入試)には以下のような広報・募集活動の強化を図った。

- ・総合型選抜(併願)の導入による入試改革
- ・オープンキャンパス日程の見直し
- ・高校教員向け説明会の実施
- ・平日見学会の実施
- ・工業高校向けイベントの開催

これらの施策により、前年と比較して入学希望者数を増加させることができた。今後も引き続き、同様の施策を強化・継続し、入学希望者数の安定確保に努める。

内部統制システム整備の基本方針

[2025 年 3 月 24 日 理事会決議]

本法人は、2025 年 3 月 24 日、理事会において、理事の職務執行が法令・寄附行為に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、本法人の基本方針を以下のとおり決定した。

1. 経営に関する管理体制

- 1) 理事会は定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令・寄附行為に従い、必要な事項については評議員会の意見を聴いたうえで、業務執行上の重要事項を審議・決定するとともに、理事の職務執行を監督する。
- 2) 寄附行為に基づき、理事会及び評議員会の役割、権限及び体制を明確にし、適切な理事会及び評議員会の運営を行う。
- 3) 業務執行理事は、法人の管理運営を円滑に行うために理事会の決定した業務に関してその執行にあたり、適正に管理する。
- 4) 職務分掌・決裁権限を明確にし、理事、職員等の職務執行の適正性を確保するとともに、機動的な業務執行と有効性・効率性を高める。
- 5) 理事会、評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、寄附行為及び文書保存規程に基づき、適切に作成、保存及び管理する。
- 6) 業務執行機関からの独立性を有する監査体制により、業務の適正及び効率性を確保するため、業務を執行する各部の職務執行状況等を定期的に監査する。

2. リスク管理に関する体制

- 1) リスク管理に関し、体制及びリスク管理規程を整備し、役割権限、リスクの評価方法、リスク対応方法等を明確にする。
- 2) 個人情報保護に関する諸規程に基づき、個人情報の保護と適切な管理を行う。
- 3) 事業活動に関するリスクについては、法令及び本法人の規程等に基づき、職務執行部署が自律的に管理することを基本とする。
- 4) リスクの統括管理については、監査計画に基づき、重要リスクが漏れなく適切に管理されているかを適宜監査し、その結果について業務を執行する理事及び理事会に報告する。
- 5) 本法人の経営に重大な影響を及ぼすおそれのある重要リスクについては、理事会で審議し、必要に応じて対策等の必要な事項を決定する。
- 6) 災害、事故その他の緊急時に備え、対応組織や情報連絡体制等について規程等を定めるとともに、継続的な教育と定期的な訓練を実施する。
- 7) 研究活動について、内部牽制機能による研究費の適正経理、研究不正の防止及び知的財産の保護を確保するため、規程等を定めるとともに、必要な措置を講じる。

3. コンプライアンスに関する管理体制

- 1) 理事及び職員が法令並びに寄附行為及び本法人の規程を遵守し、確固たる倫理観をもって事業活動等を行う組織風土を高めるために、倫理規程を定める。
- 2) 本法人のすべての役職員のコンプライアンス意識の醸成と定着を推進するため、不正防止等に関わる役職員への教育及び啓発活動を継続して実施、周知徹底を図る。
- 3) 本法人の内外から匿名相談できる通報窓口を常設して、不正の未然防止を図るとともに、速やかな調査と是正を行う体制を推進する。通報窓口又は監事に対しコンプライアンスに関する相談又は違反に係る通報をしたことを理由に、不利益な取扱いを行わない。
- 4) 監査計画に基づき、職員等の職務執行状況について、コンプライアンスの観点から監査し、その結果について業務執行理事に報告する。業務執行理事は、当該監査結果を踏まえ、所要の改善を図る。
- 5) 法令・寄附行為違反等の行為が発見された場合には、倫理規程に従って、理事会において迅速に状況を把握するとともに、外部専門家と協力しながら適正に対応する。

4. 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）

- 1) 監事は、監事監査規程に基づき、公平不偏の立場で監事監査を行う。
- 2) 監事は、理事会、評議員会等の重要会議への出席並びに重要書類の閲覧、審査及び質問等を通して、理事等の職務執行についての適法性、妥当性に関する監査を行う。
- 3) 監事は、理事会が決定する内部統制システムの整備について、その決議及び決定内容の適正性について監査を行う。
- 4) 監事は、重要な書類及び情報について、その整備・保存・管理及び開示の状況など、情報保存管理体制及び情報開示体制の監査を行う。
- 5) 理事又は職員等は、本法人に著しい損害を与えるおそれのある事実又は法令、寄附行為その他の規程等に反する行為等を発見したときは、直ちに理事長、業務執行理事並びに監事に報告する。
- 6) 理事及び職員等は、職務執行状況等について、監事が報告を求めた場合には、速やかにこれに応じる。
- 7) 理事長は、定期的に監事と会合を持つなどにより、事業の遂行と活動の健全な発展に向けて意見交換を図り、相互認識を深める。

5. 本方針の改廃

本方針に見直しの必要性が生じた場合は、理事会の決議により改正するものとする。

教員研究業績

(1) 原著論文

1. Kaji T, Osanai K, Takahashi A, Kinoshita A, Satoh D, Nakata T, Tamaki N: Improvement of motion artifacts using dynamic whole-body ^{18}F -FDG PET/CT imaging, Jpn J Radiol, 2024, 42(4), 374-381
2. Yamada S, Kotani T, Tamaki N, Nakai Y, Toyama Y, Nishimura M, Nakamura Y, Nii T, Yamada K: Dynamic FDG PET/CT for differentiating focal pelvic uptake in patients with gynecological cancer, Sci Rep, 2024, 14(1), 29499
3. 大野和子: 放射線防護の基礎知識, 心臓, 2024, 56(3), 232-235
4. 大野和子: チームで進める診療放射線安全管理, 患者安全推進ジャーナル, 2024, 76, 12-16
5. Wakabayashi K, Hirata M, Monzen H, Inagaki T, Sonomura T: Optimal correction strategy of image guided radiation therapy including the paraortic lymph node region in patients with cervical cancers, Adv Radiat Oncol, 2024, 10, 9
6. Ito T, Kubo K, Nakahara R, Fukunaga J, Ueda Y, Kamima T, Shimizu Y, Hirata M, Kawamorita R, Ishii K, Nakamatsu K, Monzen H: Validating knowledge-based volumetric modulated arc therapy plans with a multi-institution model (broad model) using a complete open-loop dataset for prostate cancer, Phys Eng Sci Med, 2024
7. Yamada S, Kotani T, Tamaki N, Nakai Y, Toyama Y, Nishimura M, Nakamura Y, Nii T, Yamada K: Dynamic FDG PET/CT for differentiating focal pelvic uptake in patients with gynecological cancer, Sci Rep, 2024, 14(1), 29499
8. Nii T, Hosokawa S, Kotani T, Nakamura Y, Kondo R, Takahashi Y: Image reconstruction parameters and the standardized uptake value ratios in brain amyloid PET, Nucl Med Commun, 2024, 45(11), 984-991
9. Nakamura K, Kubo K, Hirata M, Sakai Y, Nakamura Y, Kosaka H, Monzen H: Evaluation of the shielding effectiveness of a non-toxic, double-layered BaSO₄/W composite against diagnostic X-rays, Radiation Physics and Chemistry, 2024, 219(2), 111684
10. Toru Kojima, Hiroyuki Okamoto, Masahiko Kurooka, Naoki Tohyama, Ichiro Tsuruoka, Mikio Nemoto, Kohei Shimomura: Current status of the working

- environment of brachytherapy in Japan:a nationwide survey-based analysis focusing on radiotherapy technologists and medical physicists, Journal of radiation research, 2024, 65, 851-861
11. Seiichi Ota, Keisuke Yasui, Toshiyuki Ogata, Yutaro Mori, Teiji Nishio, Naoki Tohyama, Hiroyuki Okamoto, Masahiko Kurooka, Kohei Shimomura : Clinical workload profile of medical physics professionals at particle therapy Centers:a National Survey in Japan, Journal of radiation research, 2025, 66, 52-64 (2024. 12. 9)
 12. Omokawa M, Kimura H, Hatsukawa Y, Kawashima H, Tsukada K, Yagi Y, Naito Y, Yasui H : Production and synthesis of a novel ¹⁹¹Pt-labeled platinum complex and evaluation of its biodistribution in healthy mice, Bioorganic & Medicinal Chemistry, 2024, 97, 117557
 13. 竹村匡正, 本谷崇之, 櫻井理紗, 佐藤瑞月, 門野勇介, 山下晃平, 森本崇裕, 岸本和昌 : precision medicine 実現のための次世代の医療情報基盤, 月刊 Precision Medicine, 2024, 7(9), 737-741
 14. Tatsuya Oki, Yukihiro Nagatani, Shota Ishida, Masayuki Hashimoto, Yasuhiko Oshio, Jun Hanaoka, Ryo Uemura, Yoshiyuki Watanabe : Right main pulmonary artery distensibility on dynamic ventilation CT and its association with respiratory function, European radiology experimental, 2024, 8(1), 50
 15. Shota Ishida, Yasuhiro Fujiwara, Naoyuki Takei, Hirohiko Kimura, Tetsuya Tsujikawa : Comparison between supervised and physics-informed unsupervised deep neural networks for estimating cerebral perfusion using multi-delay arterial spin labeling MRI, NMR in biomedicine, 2024, 37(10), e5177
 16. Hidehiko Okazawa, Munenobu Nogami, Shota Ishida, Akira Makino, Tetsuya Mori, Yasushi Kiyono, Masamichi Ikawa : PET/MRI multimodality imaging to evaluate changes in glymphatic system function and biomarkers of Alzheimer's disease, Scientific reports, 2024, 14(1), 12310
 17. Shota Ishida, Yasuhiro Fujiwara, Yuki Matta, Naoyuki Takei, Masayuki Kanamoto, Hirohiko Kimura, Tetsuya Tsujikawa : Enhanced parameter estimation in multiparametric arterial spin labeling using artificial neural networks, Magnetic resonance in medicine, 2024, 92(5), 2163-2180
 18. Tatsuya Oki, Atsushi Tsuji, Shota Ishida, Jun Matsubayashi, Kazumichi Yoshida, Yoshiyuki Watanabe : Arterial spinlabeling detects trapped labeled spins in flow-diverted aneurysms and it reflects intra-aneurysmal flow stasis, Interv Neuroradiol, 2024, in press

(2) 著書・報告集など

19. 真鍋治, 三浦史郎, 相川忠夫, 玉木長良, 真鍋徳子: 心臓核医学による冠微小循環障害の評価, Heart View, 2024, 28(9), 870-874
20. 小谷知也, 玉木長良, 山田幸美, 秋山新平, 金山大成, 中井義知, 山田恵: FDG-PET/CT における Dynamic PET imaging による良悪性鑑別, Rad Fan, 2024, 22(10), 38-42
21. 玉木長良: アイソトープと共に 46 年, JAPI (放射線照射利用施設促進協議会), Newsletter, 2024, 27(3), 1-3
22. 玉木長良: 次の世代に引き継ぐ役割, 百万遍通信, 2024, No192, 4-6
23. 玉木長良: 魅力あふれる人との出会いと、恵まれた環境での業務. 私の RI 履歴, ISOTOPE NEWS, 2024, 275(10), 46-51
24. Tamaki N, Manabe O: Current status and perspectives of nuclear cardiology, Ann Nucl Med, 2024, 38(1), 20-30
25. Tamaki N, Manabe O, Hirata K: Cardiovascular imaging in cardio-oncology, Jpn J Radiol, 2024, 42(12), 1372-1380
26. Manabe O, Tamaki N: Revealing the hidden depths of Takotsubo syndrome, The crucial role of PET in understanding and managing cardiac microvascular dysfunction, (Editorials) J Nucl Cardiol, 2024, 37, 101878
27. 江本豊: 人工知能(AI)の実践的応用が始まった, RadFan, (株)メディカルア, 2024, 6, 53-55
28. 大野和子(全体の編集責任), 相田典子, 溝脇尚志, 木戸 晶: 放射線科医から診療放射線技師へのタスク・シフト/シェアのためのガイドライン集, 日本医学放射線学会、日本放射線科専門医会・医会、日本診療放射線技師会共同編集 Web 版, 2024, 2
29. 大野和子(全体の編集責任), 稲岡勉, 城戸輝仁, 五島聡: 画像検査を使いこなす, 日本医師会雑誌特別号, 杏林林, 2024, 153
30. 赤澤博之, 水田正芳: 診療画像機器学, 診療放射線技師国家試験完全対策問題集 2025 年版, オーム社, 2024, 18~67, 432~474
31. 屋木祐亮: 1 章放射化学, 2025 年版診療放射線技師国家試験完全問題集, オーム社, 2024
32. 桑原奈津美: SNS 分析によるマンモグラフィ検診受診率低迷の要因解明, 2023 年度若手・女性研究者奨励金研究レポート, 日本私立学校振興・共済事業団, 2024, 6, 201-2020

33. Osamu TOGAO, Makoto OBARA, Koji YAMASHITA, Kazufumi KIKUCHI, Tatsuhiro WADA, Chiaki TOKUNAGA, Ryoji MIKAYAMA, Shota ISHIDA, Marc VAN CAUTEREN, Kousei ISHIGAMI : Hybrid Multi-Delay PCASL of Time-Encoded and Variable-TR Schemes for the Assessment of Cerebral Perfusion in Moyamoya Disease, Japanese Journal of Magnetic Resonance in Medicine, J-STAGE, 2024, 44(3), 93-100

(3) 国際学会発表

34. Tamaki N : FDG imaging for assessing cardiovascular inflammation. (Keynote lecture), The 20 th Hangzhou International Molecular Imaging Conference (HIMIC 2024), 2024. 10. 25-27, Hangzhou, China
35. Nakata E, Mukai A, Tomitaka T, Shimizu H : Dynamics of Failure:Severity, Ownership, and Time in Shaping Positive Reinterpretations, 33rd International Congress of Psychology, 2024. 7, Prague
36. 青野美幸 : Program for Medical Students to Improve Their Japanese Language Skills and to Increase Their Motivation for Learning, The 1st International Joint Conference for Student Success, Honolulu, HI, United States, 2024. 3, ハワイ大学マノア校
37. Ando M, Yagi Y, Omokawa M, Kimura H, Higuchi T : Synthesis and Application of meta-TDBFB for F-18 Indirect Labeling via Suzuki Coupling, European Association of Nuclear Medicine, 37rd Annual EANM Congress, 2024. 10, Hamburg
38. Yagi Y, Kimura H, Fuseda R, Murakami T, Omokawa M, Kise S, Sone M, Saji H : Synthesis and Evaluation of CYP11B2 selective PAY derivatives for Primary Aldosteronism Imaging, European Association of Nuclear Medicine, 37rd Annual EANM Congress, 2024. 10, Hamburg
39. Obara M, Togao O, Mikayama R, Wada T, Tokunaga C, Vaclavu L, van Osch MJ, Ishida S, van de Ven K, Ito Y, Hamano H, Ueda Y, Jihun K, Yoneyama M, Van Cauteren M : Assessment of a long label duration in multi-delay pseudo-continuous arterial spin labelling scheme, 2024 ISMRM & ISMRT Annual Meeting & Exhibition, 5, Singapore
40. Togao O, Obara M, Mikayama R, Yamashita K, Kikuchi K, Wada T, Tokunaga C, Ishida S, Vaclavu L, van Osch MJ, van de Ven K, Van Cauteren M, Ishigami K : The effect of long label duration on hybrid multi-delay PCASL of time-encoded and variable-TR schemes in Moyamoya disease, 2024 ISMRM & ISMRT Annual Meeting & Exhibition, 5, Singapore

41. Tatsuya Oki, Atsushi Tsuji, Shota Ishida, Jun Matsubayashi, Kazumichi Yoshida, Yoshiyuki Watanabe : Usefulness of Arterial Spin Labeling for Flow-Diverted Aneurysms, FON (Frontiers of Neuroimaging) 2024 Symposium & JKTH Meeting, 6, Seoul
42. Shota Ishida, Shigeki Yamada, Shinnosuke Hiratsuka, Tatsuya Oki, Mitsuhito Mase, Yoshiyuki Watanabe : Spectral Diffusion Analysis In Patients With Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus, Hydrocephalus 2024, 9, Nagoya

(4) 国内会議発表

43. 大野和子 : Overview of Diagnostic Reference Levels in Japan, 日本放射線影響学会第67回大会, 2024. 9, 北九州国際会議場
44. 黒田菜桜, 田辺泉樹, 縄田未芽果, 平尾希空, 堀本歩希, 松尾悟 : 診療放射線技師のための多言語音声翻訳アプリケーションの開発, 滋賀県診療放射線技師会第38回学術発表会, 2024. 3
45. 近藤亮太郎, 中村泰典 : Lu-177 の放射能汚染に対する遮蔽材の有効性, 第1回日本放射線医療技術学術大会, 2024. 11, 沖縄コンベンションセンター
46. 新居健, 堂本宏志, 棚田康友, 白子公己, 田畑梓, 近藤亮太郎, 徳満理晋, 中村泰典 : 骨シンチ診断支援ソフトにおける学習済みモデルの相違と大腿骨頭壊死の検出について, 第44回日本核医学技術学会, 2024. 11, パシフィコ横浜
47. 富高智成, 中田英利子, 向居暁 : 現代における記憶観の検討 —大学生の「記憶」に関する比喩表現の変化—, 日本心理学会第88回大会, 2024. 9, 熊本城ホール
48. 霜村康平, 田中葵 : 電離箱線量計の極性効果理論に基づく新たな補正式の提案, 第1回日本放射線医療技術学術大会, 2024. 11, 沖縄コンベンションセンター
49. 霜村康平, 中坂優太 : 出力モニタリングに使用する電離箱空洞内の温度変化がリニアック出力測定に与える影響, 第1回日本放射線医療技術学術大会, 2024. 11, 沖縄コンベンションセンター
50. 屋木祐亮, 木村寛之, 樋口隆弘 : F-18 間接標識用試薬ボロン酸誘導体 3-[18F]TDBFB 及び 4-[18F]TDBFB の最適化検討, 日本薬学会第144年会, 2024. 3, パシフィコ横浜
51. 面川真里奈, 木村寛之, 初川雄一, 河嶋秀和, 塚田和明, 屋木祐亮, 内藤行喜, 安井裕之 : 抗腫瘍効果を有する新規糖連結白金錯体と ¹⁹¹Pt 標識体の合成および生物学的評価, 日本薬学会第144年会, 2024. 3, パシフィコ横浜

52. 原史子, 河嶋秀和, 堀山志朱代, 屋木祐亮, 高田慎也, 木村寛之, 萩森政頼: TNBC の早期診断を目的とした MUC16 指向性ペプチドプローブの合成, 日本薬学会第 144 年会, 2024. 3, パシフィコ横浜
53. 布施田莉子, 屋木祐亮, 安井裕之, 木村寛之: 副腎アルドステロン合成酵素(CYP11B2)を標的としたイメージングプローブの開発, 第 33 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム, 2024. 6, 岡山大学創立 50 周年記念館
54. 吉越慎, 吉越慎, 石田翔太, 吉村雅寛, 平塚真之輔, 沖達也, 渡邊嘉之: 4D-flow MRI による流速および流量と T2-CUBE における flow void 容積の関係, 第 6 回 4D FLOW 研究会, 9, 幕張メッセ
55. 石田翔太, 木村 浩彦, 磯崎誠, 松田祐貴, 辻川哲也, 岡沢秀彦: もやもや病における PET-CVR と ASL-CBVa の関係, 第 52 回日本磁気共鳴医学会大会, 9, 幕張メッセ
56. 石田翔太, 山田茂樹, 平塚真之輔, 沖達也, 間瀬光人, 渡邊嘉之: 拡散スペクトル解析による特発性正常圧水頭症における脳間質液動態評価, 第 52 回日本磁気共鳴医学会大会, 9, 幕張メッセ
57. 渡邊嘉之, 沖達也, 平塚真之輔, 吉越慎, 吉村雅寛, 石田翔太: 脳室内脳脊髄液動態ファントムの作成, 第 52 回日本磁気共鳴医学会大会, 9, 幕張メッセ
58. 石田翔太, 山田茂樹, 平塚真之輔, 沖達也, 間瀬光人, 渡邊嘉之: ハキム病(特発性正常圧水頭症)における拡散スペクトル解析, 第 9 回脳循環代謝数理モデル研究会, 10, 旧大津市公会堂
59. 吉越慎, 渡邊嘉之, 沖達也, 平塚真之輔, 吉村雅寛, 石田翔太: 脳室内脳脊髄液動態ファントムの作成, 第 9 回脳循環代謝数理モデル研究会, 10, 旧大津市公会堂

(5) 講演

60. 江本豊: 最新の HELICS 指針の話題、厚生労働省標準化動向政策, 第 44 回医療情報学連合大会, 福岡国際会議場・福岡サンパレス, 45617
61. 大野和子: 医療安全から考える核医学診療の安全管理, 日本核医学技術学会近畿地方会第 319 回定例研究会, 梅田スカイビル, 2024. 1
62. 大野和子: 医療スタッフの放射線安全, 日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, ウィンク愛知, 2024. 1
63. 大野和子: タスク・シフト/シェアの安全な推進にむけて, 第 41 回京滋 RI 検査を語る会, 三菱京都病院, 2024. 12

64. 赤澤博之：電離箱式サーベイメータ校正理論に関する講義と校正実習, 兵庫県放射線技師会, 京都医療科学大学, 2024. 8
65. 赤澤博之：線量計の校正実習, 滋賀県診療放射線技師会, 京都医療科学大学, 2024. 8
66. 赤澤博之：線量計校正およびサーベイ実習の研修会, 京都府診療放射線技師会, 京都医療科学大学, 2024. 9
67. 霜村康平：治療計画装置の基本操作、各施設実施方法の Q&A、治療計画の実際 1-2、プランチェック, 日本診療放射線技師会主催 2024 年度放射線治療分科会生涯教育セミナー(治療計画・実践編_大阪府), 森ノ宮医療大学, 2024. 1
68. 霜村康平：一次照合に必要な IGRT の基本的な知識, 大阪府診療放射線技師会令和 6 年度生涯学習「明日から役立つセミナー」, Web, 2024. 11
69. 霜村康平：各施設実施方法の Q&A, 日本診療放射線技師会主催 2024 年度放射線治療分科会生涯教育セミナー(治療計画・乳房編_北海道), 北海道大学医学部附属病院, 2024. 7
70. 石田翔太：ASL による脳灌流イメージング～基礎から最新技術まで～, 第 44 回滋賀県診療放射線技師会 MR 分科会, 草津市立市民交流プラザ, 7
71. 石田翔太：ASL の基礎・臨床応用・最新技術, 第 68 回日本放射線技術学会近畿支部学術大会, 森ノ宮医療大学, 11

(6) その他

【受賞】

72. 布施田莉子, 屋木祐亮, 安井裕之, 木村寛之：ポスター賞, 副腎アルドステロン合成酵素 (CYP11B2) を標的としたイメージングプローブの開発, 第 33 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム, 6, 岡山大学創立 50 周年記念館
73. 石田翔太：第 52 回日本磁気共鳴医学会大会大会長賞(優秀賞), もやもや病における PET-CVR と ASL-CBVa の関係, 日本磁気共鳴医学会, 9, 幕張メッセ